

公 開
資料 3

第 3 3 9 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 5 年 2 月 2 2 日

日 本 学 術 会 議

公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
Ⅲ 公開審議事項						
1. 規則関係						
提案 1	「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」の一部を改正すること	国際委員会委員長	5	「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」について、以下を変更及び規定する必要があるため。 ・代表派遣について 優先される会議の規定、対象となる会議の規定、投票権を行使する派遣者の指名手続きに関する規定、実施計画・候補者推薦書・出席報告書の様式変更、代表派遣応募に必要な会議推薦書及び会議調書の様式 ・国際会議主催等について 国際シンポジウム開催に関する手続き ※国際委員会 2 月 9 日承認	高村副会長	—
2. 委員会関係						
提案 2	(機能別委員会) 選考委員会 (1) 運営要綱の一部改正 (委員の構成の変更) (2) 分科会委員の決定 (新規 4 件)	選考委員会委員長	17	(1) 選考委員会における分科会委員の構成の変更について、運営要綱の一部を改正する必要があるため。 (2) 選考委員会における分科会委員を決定する必要があるため。	会長	(1) 選考委員会運営要綱 2 (2) 内規 18 条
提案 3	(課題別委員会) (1) 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会設置要綱及び学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会設置要綱の一部改正 (分科会の設置 1 件) (2) 分科会委員の決定 (新規 1 件)	(1) 我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会委員長及び学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会委員長 (2) 会長	23	我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会及び学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会に新規の合同分科会を設置することに伴い、設置要綱の一部を改正するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。	菱田副会長	(1) 会則 27 条 1 項 (2) 内規 18 条
3. 国際関係						
提案 4	令和 5 年度代表派遣について (1) 代表派遣実施計画の決定 (2) 実施計画に基づく 4－7 月期の会議派遣者の決定	会長	31	令和 5 年度代表派遣について、代表派遣実施計画の決定をするとともに、実施計画に基づき 4－7 月期の会議派遣者を決定する必要があるため。	高村副会長	(1) 国際学術交流事業に関する内規 18 条 (2) 同内規 19 条 2 項

提案5	新型コロナ感染症の影響下における代表派遣者の現地派遣方針について	国際委員会委員長	35	「新型コロナ感染症の影響下における代表派遣者の現地派遣方針（案）」（第322回（令和4年2月24日）幹事会承認）を廃止する必要があるため。	高村副会長	国際学術交流事業に関する内規21条2項
提案6	国際測地学および地球物理学連合（IUGG）総会等にかかる出張者に信任状を発出すること	会長	39	国際測地学および地球物理学連合（IUGG）にかかる出張者に信任状を発出する必要があるため。	高村副会長	国際学術交流事業に関する内規23条
提案7	令和5年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を決定すること	会長	41	令和5年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣について、基本方針を決定をする必要があるため。	高村副会長	国際学術交流事業に関する内規52条準用
提案8	令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を決定すること	会長	43	令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣について、基本方針を決定する必要があるため。	高村副会長	国際学術交流事業に関する内規52条準用

4. 学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和5年度第1四半期】（追加）

提案9	学術フォーラム「オープンサイエンス、データ駆動型研究で変わる科学と社会（仮）」の開催について	オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会委員長	45	主催：日本学術会議 日時：令和5年5～6月 場所：オンライン ※日本学術会議が開催主体のため、幹事会の決定が必要	—	内規別表第2
-----	--	---------------------------------------	----	---	---	--------

5. その他のシンポジウム等

提案10	公開シンポジウム「農芸化学分野における『視る・創る』イノベーションの新潮流」の開催について	食料科学委員会委員長、農学委員会委員長	49	主催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、公益社団法人日本農芸化学会 日時：令和5年3月15日（水）16：00～18：30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム「第15回防災減災学術連携シンポジウム『気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開』」の開催について	防災減災学術連携委員会委員長	53	主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会 日時：令和5年4月11日（火）13：00～17：00 場所：オンライン開催	—	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム「第69回構造工学シンポジウム」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	57	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会 日時：令和5年4月15日（土）～16日（日） 場所：東京工業大学大岡山キャンパス西9号館（東京都目黒区）（予定）（ハイブリッド開催予定） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案13	公開シンポジウム「カーボンニュートラル時代の熱エネルギー革新議論と社会実装」の開催について	総合工学委員会委員長、環境学委員会委員長、化学委員会委員長、材料工学委員会委員長	61	主催：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会、環境学委員会環境科学分科会、化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合同触媒化学・化学工学分科会 日時：令和5年5月12日（金）13：30～17：40 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）、他1会議室 ※第三部承認	—	内規別表第2

提案14	公開シンポジウム 「口腔保健からWell-beingを再考する」の開催について	歯学委員会委員長	65	主催：日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会、基礎系歯学分科会 日時：令和5年5月13日（土）15：40～17：10 場所：岡山コンベンションセンター（岡山県岡山市北区） ※第二部承認	－	内規別表第2
提案15	講演会 「ことば・思考の力をどう育てるかー社会の包摂性を高めるためにー」の開催について	心理学・教育学委員会委員長	67	主催：日本学術会議心理学・教育学委員会排除・包摂と教育分科会、一般社団法人日本教育学会近畿地区理事会 日時：令和5年5月26日（金）19：00～21：00 場所：オンライン開催 ※第一部承認	－	内規別表第2
提案16	公開シンポジウム「基礎科学が導くSDGs達成への道～結晶&生命&技術革新～」の開催について	化学委員会委員長、物理学委員会委員長	69	主催：日本学術会議化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会IUCr分科会 日時：令和5年5月27日（土）13：00～16：40 場所：オンライン開催 ※第三部承認	－	内規別表第2
提案17	公開シンポジウム 「世界哲学と世界の危機」の開催について	哲学委員会委員長	71	主催：日本学術会議哲学委員会世界哲学構築のための分科会、日本哲学会、哲学系諸学会国際連合（FISP） 日時：令和5年5月28日（日）9：30～19：00 場所：東京大学本郷キャンパス文学部一番大教室（東京都文京区） ※第一部承認	－	内規別表第2
提案18	公開シンポジウム 「第35回環境工学連合講演会」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	75	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会 日時：令和5年5月30日（火）10：00～17：30 場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）他2会議室 ※第三部承認	－	内規別表第2
提案19	公開シンポジウム 「安全安心な未来の食料生産を考えるー昆虫がつなぐ2050年の食生活ー（案）」	農学委員会委員長	79	主催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会 日時：令和5年6月10日（土）13：00～16：45 場所：オンライン開催 ※第二部承認	－	内規別表第2

6．後援

提案20	国際会議の後援をすること	会長	81	以下の国際会議において、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ①第34回国際生物科学連合総会 ②第5回アジア太平洋研究公正ネットワークミーティング2023	高村副会長	国際学術交流事業に関する内規39条
提案21	国内会議の後援をすること	会長	83	以下について、後援の申請があり、関係する部、委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・日本物理学会シンポジウム「日本の研究力と研究の多様性～現状分析から研究力強化を考える～」	会長	後援名義使用承認基準3（2）ウ

7. その他

件名		資料(頁)
参考 1	日本学術会議の在り方関係	別冊
参考 2	今後の総会及び幹事会開催予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は、令和 5 年 3 月 23 日 (木) 14:30～開催。	85

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後	改 正 前
（事業の範囲） 第1条 （略） （2）学術に関する<u>国際会議等</u>への代表の派遣（以下「代表派遣」という。） （略） （4）<u>世界に共通する科学的諸問題の解決に向けて国内外の科学者等により議論するシンポジウムの開催（以下「国際シンポジウム」という。）</u> <u>（5）</u>（略） <u>（6）</u>（略） <u>（7）</u>（略） <u>（8）</u>（略） （代表派遣の目的） 第14条 代表派遣は、<u>次条で定める</u>学術に関する国際会議等に学術会議の代表を派遣することにより、世界の学界との連携、国際学術団体の運営への参画、学術に関する動向の把握、研究の連絡並びに情報の収集及び交換等を行うことを目的とする。 （代表派遣実施計画案の作成） 第17条 会長は、前条第2項の規定により会議調書の提出があったときは、次の各号に掲げる区分に基づき、代表派遣実施計画（以下「派遣実施計画」という。）の案の策定を国際委員会に依頼するものとする。 （1）第1区分	（事業の範囲） 第1条 （同左） （2）学術に関する<u>国際会議等のうち、外国で開催されるもの</u>への代表の派遣（以下「代表派遣」という。） （同左） （加える。） <u>（4）</u>（同左） <u>（5）</u>（同左） <u>（6）</u>（同左） <u>（7）</u>（同左） （代表派遣の目的） 第14条 代表派遣は、<u>外国で開催される次条で定める</u>学術に関する国際会議等に学術会議の代表を派遣することにより、世界の学界との連携、国際学術団体の運営への参画、学術に関する動向の把握、研究の連絡並びに情報の収集及び交換等を行うことを目的とする。 （代表派遣実施計画案の作成） 第17条 会長は、前条第2項の規定により会議調書の提出があったときは、次の各号に掲げる区分に基づき、代表派遣実施計画（以下「派遣実施計画」という。）の案の策定を国際委員会に依頼するものとする。 （1）第1区分

ア 第15条第1号に掲げる会議のうち加入国際学術団体の総会 イ 国際学術団体の総会のうち、アに準ずるものとして幹事会に諮り承認されたもの (略) 4 国際委員会は、前項の派遣実施計画の案の作成に当たっては、第1項第1号に区分される会議を優先しなければならない。<u>ただし、国際委員会が会議の内容等に照らして代表派遣が必要と認めるものについては、この限りでない。</u> (学術会議代表指名) 第23条 会長は、代表派遣会議が加入国際学術団体の総会で派遣者に投票権が付与されている場合には、幹事会の議決を経て、当該派遣者を学術会議を代表して投票権を行使するものとして指名するものとする。<u>ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。</u> 2 会長は、前項の投票権が複数あって、これを行行使するための複数の派遣者を派遣することが困難な場合には、派遣者以外の者をもって前項の学術会議代表に指名することができる。この場合にあつては、関係委員長は、会員又は連携会員の中から適任者を会長に推薦するものとする。ただし、やむを得ない事由がある場合は、会員及び連携会員以外の者で適任者を推薦することができる。 3 会長は、前項の推薦があつた場合は第1項の指名と併せて幹事会の承認を得るものとする。<u>ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。</u>	ア 第15条第1号に掲げる会議のうち加入国際学術団体の総会 イ 国際学術団体の総会のうち、アに準ずるものとして幹事会に諮り承認されたもの (同左) 4 国際委員会は、前項の派遣実施計画の案の作成に当たっては、第1項第1号に区分される会議を優先しなければならない。 (学術会議代表指名) 第23条 会長は、代表派遣会議が加入国際学術団体の総会で派遣者に投票権が付与されている場合には、幹事会の議決を経て、当該派遣者を学術会議を代表して投票権を行使するものとして指名するものとする。 2 会長は、前項の投票権が複数あって、これを行行使するための複数の派遣者を派遣することが困難な場合には、派遣者以外の者をもって前項の学術会議代表に指名することができる。この場合にあつては、関係委員長は、会員又は連携会員の中から適任者を会長に推薦するものとする。ただし、やむを得ない事情がある場合は、会員及び連携会員以外の者で適任者を推薦することができる。 3 会長は、前項の推薦があつた場合は第1項の指名と併せて幹事会の承認を得るものとする。
---	---

(略) <u>5 代表派遣予定者の信任状の発出等、会長等による文書等が必要な場合については、第 1 項及び第 3 項の規定を準用する。</u> (派遣者の報告) 第 2 5 条 派遣者は、代表派遣会議において、前条第 1 項各号に掲げる事項について決議等があった場合は、その内容について<u>派遣期間終了後速やかに</u>関係委員長を経由して会長に報告しなければならない。 (略) 3 派遣者は、代表派遣会議から、<u>派遣期間終了後 1 か月以内</u>に、当該会議の関係資料を付して、様式第 7 に定める代表派遣会議出席報告書を会長に提出しなければならない。 <u>第 5 章 国際シンポジウム</u> <u>(国際シンポジウムの目的)</u> <u>第 4 3 条 国際シンポジウムは、我が国及び世界において共通する科学的諸問題の解決に向けた科学の貢献について、国内外の科学者等が議論する場を提供するとともに、その成果を広く一般に反映浸透させることを目的とする。</u> <u>(内容)</u> <u>第 4 4 条 国際シンポジウムは、前条の目的を達成するため、国内外の科学者等による発表及び討論等を行い、これを広く一般に公開することにより行うものとする。</u> <u>(検討)</u> <u>第 4 5 条 国際シンポジウムは、国際委員会に置かれる分科会において、企画立案及び実施準備を行うこととする。</u>	(同左) (加える。) (派遣者の報告) 第 2 5 条 派遣者は、代表派遣会議において、前条第 1 項各号に掲げる事項について決議等があった場合は、その内容について<u>帰国後速やかに</u>関係委員長を経由して会長に報告しなければならない。 (同左) 3 派遣者は、代表派遣会議から、<u>帰国後 1 か月以内</u>に、当該会議の関係資料を付して、様式第 7 に定める代表派遣会議出席報告書を会長に提出しなければならない。 (加える。)
---	--

<u>(経費)</u> <u>第46条 国際シンポジウムを他の機関と共同して主催する場合には、会長は、当該他の機関と準備及び運営等に関する事務及び経費の分担について協議するものとする。</u> <u>2 国際シンポジウム開催経費のうち、前項の協議の結果国費で支弁することとなった以外のものについては、当該他の機関が負担するものとする。</u> <u>3 当該事務及び経費の分担に係る合意事項については、各主催機関において確認を要するものとする。</u> <u>第6章 二国間学術交流</u> (二国間学術交流の目的) <u>第47条 (略)</u> (内容) <u>第48条 (略)</u> (検討及び実施) <u>第49条 (略)</u> <u>第7章 アジア学術会議</u> (アジア学術会議の目的) <u>第50条 (略)</u> (内容) <u>第51条 (略)</u> (検討及び実施) <u>第52条 (略)</u> <u>第8章 フューチャー・アースの国際的展開</u> (フューチャー・アースの国際的展開の目的)	<u>第5章 二国間学術交流</u> (二国間学術交流の目的) <u>第43条 (同左)</u> (内容) <u>第44条 (同左)</u> (検討及び実施) <u>第45条 (同左)</u> <u>第6章 アジア学術会議</u> (アジア学術会議の目的) <u>第46条 (同左)</u> (内容) <u>第47条 (同左)</u> (検討及び実施) <u>第48条 (同左)</u> <u>第7章 フューチャー・アースの国際的展開</u> (フューチャー・アースの国際的展開の目的)
---	--

<u>第 5 3 条</u> (略) (内容) <u>第 5 4 条</u> (略) (派遣の基本方針案の作成) <u>第 5 5 条</u> (略) (派遣の基本方針の作成) <u>第 5 6 条</u> (略) (派遣会議の選定及び派遣者の推薦) <u>第 5 7 条</u> (略) 3 国際的展開対応分科会は、派遣会議の選定を行うにあたっては、<u>第 5 5 条</u>第 1 号に区分される会議を優先しなければならない。 (略) (派遣期間) <u>第 5 8 条</u> (略) (派遣会議の変更等) <u>第 5 9 条</u> (略) (会議の運営等) <u>第 6 0 条</u> 学術会議は、<u>第 5 4 条</u>第 2 号の活動を行うため、国内及び海外で開催される国際会議等であって、フューチャー・アースの国際的な意思決定及び運営上の問題を審議するもの若しくはフューチャー・アースの推進に資する研究発表及び討論等を行うもの、又は両者を併せ行うものに関して、主催団体の要請に応じ、運営の一部を担うことができることとす	<u>第 4 9 条</u> (同左) (内容) <u>第 5 0 条</u> (同左) (派遣の基本方針案の作成) <u>第 5 1 条</u> (同左) (派遣の基本方針の作成) <u>第 5 2 条</u> (同左) (派遣会議の選定及び派遣者の推薦) <u>第 5 3 条</u> (同左) 3 国際的展開対応分科会は、派遣会議の選定を行うにあたっては、<u>第 5 1 条</u>第 1 号に区分される会議を優先しなければならない。 (同左) (派遣期間) <u>第 5 4 条</u> (同左) (派遣会議の変更等) <u>第 5 5 条</u> (同左) (会議の運営等) <u>第 5 6 条</u> 学術会議は、<u>第 5 0 条</u>第 2 号の活動を行うため、国内及び海外で開催される国際会議等であって、フューチャー・アースの国際的な意思決定及び運営上の問題を審議するもの若しくはフューチャー・アースの推進に資する研究発表及び討論等を行うもの、又は両者を併せ行うものに関して、主催団体の要請に応じ、運営の一部を担うことができることとす
---	---

る。

(決定等)

第61条 (略)

第9章 その他学術交流

(海外で開催される国際会議の運営)

第62条 (略)

(決定等)

第63条 (略)

様式第4 (第17条関係)

日本学術会議会長 殿

国際委員会委員長
氏名_____

令和 年度代表派遣実施計画の案

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第17条の規定に基づき、下記のとおり代表派遣実施計画の案を提出します。

記

番号	会議名	開催地	会期 (日数)	派遣候補者 (職名)	旅費見積額				優先 順位
					日当(旅行 日を含む)	宿泊	交通費	合計額	
1		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
2		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	

る。

(決定等)

第57条 (同左)

第8章 その他学術交流

(海外で開催される国際会議の運営)

第58条 (同左)

(決定等)

第59条 (同左)

様式第4 (第17条関係)

日本学術会議会長 殿

国際委員会委員長
氏名_____

令和 年度代表派遣実施計画の案

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第17条の規定に基づき、下記のとおり代表派遣実施計画の案を提出します。

記

番号	会議名	開催地	会期 (日数)	派遣候補者 (職名)	外国旅費見積額				優先 順位
					日当(旅行 日を含む)	宿泊	航空賃 ディスカウント	合計額	
1		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
2		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	

3		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
4		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
5		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
6		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
7		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
8		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
9		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
10		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	

様式第6（第19条関係）
日本学術会議会長 殿

令和 年 月 日

委員長 委員会

3		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
4		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
5		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
6		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
7		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
8		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
9		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	
10		_____ ()	/ ~ / (日)	()	円	円	円	円	

様式第6（第19条関係）
日本学術会議会長 殿

令和 年 月 日

委員長 委員会

令和 年度代表派遣会議候補者推薦書

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第19条第1項の規定に基づき、下記のとおり派遣候補者を推薦いたします。

記

会議の名称	(和 文)			
	(欧 文)			
開催地	国	市	会期	年 月 日～ 年 月 日
氏名	本人慣用の ローマ字表記			
勤務先		職名		
			(英訳)	
勤務先 所在地				(電話番号)
現住所				(電話番号)
最終学歴及 び主な職歴				
主な研究 業績				
日本学術会 議との関係	1 会員 (第 部) 2 分野別委員会 (委員会) 3 国際委員会分科会委員 (分科会) (1、2を除く)			
会議で の役割	1 主催機関の役員 2 会議の座長になる予定 3 指名招請されている 4 一般的招請により参加 5 その他 (右の余白に具体的に記入) (注) 招請状の写しを1部添付してください。			
出席 費用	主催機関等によるギャランティーの有無 1 あり (1) 往復運賃及び会期中の滞在費 (負担機関名:) (2) 会期中の滞在費 (負担機関名:) (3) その他 (具体的に記入) (負担機関名:) (注) ギャランティーのある場合は、それを明記した資料を1部添付してください。 2 なし			

- 注 1 ※印欄は記入不要です。
 2 派遣候補者は、日本学術会議会員の中から適任者を選考すること。ただし、連携会員の中に適任者があるときは、当該連携会員を派遣候補

令和 年度代表派遣会議候補者推薦書

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第19条第1項の規定に基づき、下記のとおり派遣候補者を推薦いたします。

記

名 称	(和 文)			
	(欧 文)			
開催地	国	市	会期	年 月 日～ 年 月 日
氏名	本人慣用の ローマ字表記			
勤務先		職名		
			(英訳)	
勤務先 所在地				(電話番号)
現住所				(電話番号)
最終学歴及 び主な職歴				
主な研究 業績				
日本学術会 議との関係	1 会員 (第 部) 2 分野別委員会 (委員会) 3 国際委員会分科会委員 (分科会) (1、2を除く)			
会議で の役割	1 主催機関の役員 2 会議の座長になる予定 3 指名招請されている 4 一般的招請により参加 5 その他 (右の余白に具体的に記入) (注) 招請状の写しを1部添付してください。			
出席 費用	主催機関等によるギャランティーの有無 1 あり (1) 往復運賃及び会期中の滞在費 (負担機関名:) (2) 会期中の滞在費 (負担機関名:) (3) その他 (具体的に記入) (負担機関名:) (注) ギャランティーのある場合は、それを明記した資料を1部添付してください。 2 なし			

- 注 1 ※印欄は記入不要です。
 2 派遣候補者は、日本学術会議会員の中から適任者を選考すること。ただし、連携会員の中に適任者があるときは、当該連携会員を派遣候補者にすることができます。

者にすることができます。

3 派遣者は、本推薦書に基づいて、幹事会で決定されます。決定された場合、直ちにその旨をお知らせしますので、その後に渡航手続の準備をしていただくことになります。

4 会議の日程等に変更がある場合は、お早めに事務局参事官（国際業務担当）室国際業務総括専門職まで御連絡ください。

受 付	調書番号	推薦番号
※ 令和 年 月 日	※	※

様式第 7（第 2 5 条関係）

令和 年 月 日

日本学術会議会長 殿

報告者氏名_____

所属する分野別委員会名・分科会名

代表派遣会議出席報告書

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第 2 5 条第 3 項の規定に基づき、下記のとおり報告いたします。

記

1 会議の名称
(和 文) _____
(欧 文) _____

2 会 期
年 月 日から 年 月 日まで （ 日間）

3 派遣者は、本推薦書に基づいて、幹事会で決定されます。決定された場合、直ちにその旨をお知らせしますので、その後に渡航手続の準備をしていただくことになります。

4 会議の日程等に変更がある場合は、お早めに事務局参事官（国際業務担当）室国際業務総括専門職（電話 03-3403-5731）まで御連絡ください。

受 付	調書番号	推薦番号
※ 令和 年 月 日	※	※

様式第 7（第 2 5 条関係）

令和 年 月 日

日本学術会議会長 殿

報告者氏名_____

連絡先 住 所

勤務先

電 話

所属している分野別委員会名・分科会名

代表派遣会議出席報告書

日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規第 2 5 条第 3 項の規定に基づき、下記のとおり報告いたします。

記

1 会議の名称
(和 文) _____
(欧 文) _____

2 会 期
年 月 日から 年 月 日まで （ 日間）

3 会議の概要

3 会議の概要 (1) 会議の形式 (2) 会議の開催周期 (3) 会議開催地、会議場 (4) 会議開催母体機関 (5) 会議開催主催機関及びその性格 (6) 参加状況（参加国名・数、参加者数、<u>日本人参加者の氏名・職名・派遣機関</u>） (7) 次回会議予定（会期、開催地、準備組織、主なテーマ） 4 会議の学術的内容 (1) 日程と主な議題 (2) 提出論文（日本人、日本人以外） (3) 学術的内容に関する事項（当該分野の学術の動向、今後の重要課題等） (4) その他の特記事項（<u>報告すべき審議内容・成果、日本が果たした役割、共同声明の有無、国内外での報道状況、次回開催に向けての課題等</u>） 5 会議の運営 (1) 会議の使用語 (2) 出版物（サーキュラー、論文前刷、プロシーディングス） (3) 会議付帯行事（学術研究旅行、展示、社交） 6 会議全般に関する所見 7 分担金の負担額の変更等（以下、日本学術会議加入国際学術団体の場合記入） (1) 日本の負担予定額 (2) 日本以外の主要国の負担予定額 (3) 実施の時期 (4) 変更の理由（<u>理由及び計算の根拠について詳細に記述すること。変更内容の資料を添付</u>） (5) 定款等の改定、分担金の変更等についての国内委員会及び日本学術会議事務局国際業務担当への事前連絡の有無 8 関係国際学術団体の運営等	(1) 会議の形式 (2) 会議の開催周期 (3) 会議開催地、会議場 (4) 会議開催母体機関 (5) 会議開催主催機関及びその性格 (6) 参加状況（参加国名・数、参加者数、<u>日本人参加者</u>） (7) 次回会議予定（会期、開催地、準備組織、主なテーマ） 4 会議の学術的内容 (1) 日程と主な議題 (2) 提出論文（日本人、日本人以外） (3) 学術的内容に関する事項（当該分野の学術の動向、今後の重要課題等） (4) その他の特記事項 5 会議の運営 (1) 会議の使用語 (2) 出版物（サーキュラー、論文前刷、プロシーディングス） (3) 会議付帯行事（学術研究旅行、展示、社交） 6 会議全般に関する所見 7 分担金の負担額の変更等（以下、日本学術会議加入国際学術団体の場合記入） (1) 日本の負担予定額 (2) 日本以外の主要国の負担予定額 (3) 実施の時期 (4) 変更の理由 (5) 定款等の改定、分担金の変更等についての<u>国内委員会への連絡有無</u> 8 関係国際学術団体の運営等 (1) <u>定款・規則の改正</u> (2) 新役員
--	--

(1) 定款・規則の新設・改廃 <u>(関係資料を提出の上、要点を記述)</u> (2) 新役員 (3) 新規加入・脱退等（国名、団体名） (4) <u>新設・改廃された委員会等</u> (5) その他運営に関する決定事項 9 投票権を行使した決議事項のうち重要と思われる事項及びその概要 <u>10 以下について、チェックを入れる</u> ☐ 1, 2, 3, 4, 6に記載した内容を日本学術会議ホームページに掲載することを了承 ☐ 日本学術会議ホームページ等の広報活動に使用する写真の提供が可能	(3) 新規加入・脱退等（国名、団体名） (4) <u>新たに設置された委員会等</u> (5) その他運営に関する決定事項 9 投票権を行使した決議事項のうち重要と思われる事項及びその概要
---	---

附 則（令和 年 月 日日本学術会議第 回幹事会決定）

この決定は、決定の日から施行する。

選考委員会運営要綱（平成 17 年 10 月 4 日日本学術会議第 1 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前			
（分科会） 第 2 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首又は適時に分科会の設置について幹事会に提案する。				（分科会） 第 2 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。分科会の設置期限は当該期末までとし、委員長は期首又は適時に分科会の設置について幹事会に提案する。			
分科会	調査審議事項	構成	備考	分科会	調査審議事項	構成	備考
連携会員 特別選考 分科会	令和 5 年 9 月 30 日に任期が満了する会員に係る連携会員候補者の選考に関するこ と	委員会の委員のうち、令和 5 年 9 月 30 日までに会員を退任する又は会員としての任期が満了する委員以外の者（各部 2 名。要件を満たす委員が 2 名に満たない部においては、当該部に属する会員（令和 5 年 9 月 30 日までに会員を退任する又は会員としての任期が満了する会員を除く。）のうちから必要な人数の会員を加えるものとする。）	設置期間 ： 令和 5 年 1 月 1 日～令和 5 年 9 月 30 日	連携会員 特別選考 分科会	令和 5 年 9 月 30 日に任期が満了する会員に係る連携会員候補者の選考に関するこ と	委員会の委員のうち、令和 5 年 9 月 30 日までに会員を退任する又は会員としての任期が満了する委員以外の者	設置期間 ： 令和 5 年 1 月 1 日～令和 5 年 9 月 30 日
（略）				（同左）			

附 則（令和 年 月 日 日本学術会議第 回幹事会決定）
 この決定は、決定の日から施行する。

【機能別委員会】

○分科会委員の決定（新規4件）

（連携会員特別選考分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
日比谷 潤子	学校法人聖心女子学院常務理事、国際基督教大学名誉教授	第一部会員、第一部幹事
吉田 文	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	第一部会員、第一部幹事
尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科特任教授	第二部会員、第二部幹事
神田 玲子	量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門放射線医学研究所副所長	第二部会員、第二部幹事
沖 大幹	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員、第三部幹事
北川 尚美	東北大学大学院工学研究科教授	第三部会員、第三部幹事

【設置：第334回幹事会（令和4年12月8日）、決定後の委員数：6名】

（人文・社会科学選考分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大垣 昌夫	慶應義塾大学経済学部教授	第一部会員
岡崎 哲二	東京大学大学院経済学研究科教授	第一部会員
荻部 直	東京大学大学院法学政治学研究科・法学部教授	第一部会員
川嶋 四郎	同志社大学法学部法律学科教授	第一部会員
栗田 禎子	千葉大学大学院人文科学研究院教授	第一部会員
小長谷 有紀	独立行政法人日本学術振興会監事	第一部会員
小林 傳司	大阪大学名誉教授 大阪大学COデザインセンター特任教授／国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター長	第一部会員
佐藤 嘉倫	京都先端科学大学人文学部学部長・教授、東北大学大学院文学研究科教授	第一部会員
高村 ゆかり	東京大学未来ビジョン研究センター教授	第一部会員、副会長
西尾 チヅル	筑波大学ビジネスサイエンス系教授	第一部会員
西田 眞也	京都大学大学院情報学研究科教授	第一部会員
野口 晃弘	名古屋大学経済学研究科教授	第一部会員

橋本 伸也	関西学院大学文学部教授	第一部会員、第一部部長
日比谷 潤子	学校法人聖心女子学院常務理事、国際基督教大学名誉教授	第一部会員、第一部幹事
眞柄 秀子	早稲田大学政治経済学術院教授	第一部会員
松下 佳代	京都大学大学院教育学研究科教授	第一部会員
松原 宏	福井県立大学地域経済研究所特命教授	第一部会員
溝端 佐登史	京都大学名誉教授・経済研究所特任教授	第一部会員、第一部副部長
吉岡 洋	京都芸術大学文明哲学研究所特任教授	第一部会員
吉田 文	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	第一部会員、第一部幹事
吉田 和彦	京都産業大学外国語学部客員教授	第一部会員
吉水 千鶴子	筑波大学人文社会科学系教授	第一部会員
若尾 政希	一橋大学大学院社会学研究科教授	第一部会員
和氣 純子	東京都立大学大学院人文科学研究科教授	第一部会員
和田 肇	名古屋大学名誉教授	第一部会員
渡部 泰明	東京大学大学院人文社会系研究科教授	第一部会員

【設置：第334回幹事会（令和4年12月8日）、決定後の委員数：26名】

（生命科学選考分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
池邊 このみ	千葉大学大学院園芸学研究科教授	第二部会員
市川 哲雄	徳島大学大学院医歯薬学研究部教授	第二部会員
遠藤 玉夫	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所シニアフェロー	第二部会員
尾崎 紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科特任教授	第二部会員、第二部幹事
神田 玲子	量子科学技術研究開発機構量子生命・医学部門放射線医学研究所副所長	第二部会員、第二部幹事
北島 薫	京都大学農学研究科教授	第二部会員
経塚 淳子	東北大学生命科学研究科教授	第二部会員
熊谷 日登美	日本大学生物資源科学部教授	第二部会員
五斗 進	情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設教授	第二部会員
後藤 由季子	東京大学大学院薬学系研究科分子生物学教室教授	第二部会員

小林 武彦	東京大学定量生命科学研究科教授	第二部会員
小松 浩子	日本赤十字九州国際看護大学学長	第二部会員
佐々木 裕之	九州大学生体防御医学研究所・特命教授、九州大学高等研究院・特別主幹教授	第二部会員
高山 弘太郎	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授・愛媛大学大学院農学研究科教授	第二部会員
武田 洋幸	東京大学執行役・副学長、大学院理学系研究科教授	第二部会員、第二部部長
丹下 健	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員、第二部副部長
名越 澄子	埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科教授	第二部会員
仁科 弘重	愛媛大学学長	第二部会員
西村 理行	大阪大学歯学研究科教授	第二部会員
松田 道行	京都大学大学院生命科学研究科教授	第二部会員
望月 眞弓	慶應義塾大学名誉教授	第二部会員、副会長
安村 誠司	福島県立医科大学理事・副学長、医学部教授	第二部会員
山崎 真巳	千葉大学大学院薬学研究院教授	第二部会員
山本 晴子	独立行政法人医薬品医療機器総合機構医務管理監・理事長特任補佐	第二部会員

【設置：第 334 回幹事会（令和 4 年 12 月 8 日）、委員数：24 名】

（理学・工学選考分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
相澤 清晴	東京大学大学院情報理工学系研究科教授	第三部会員
浅見 真理	国立保健医療科学院生活環境研究部上席主任研究官	第三部会員
乾 晴行	京都大学大学院工学研究科材料工学専攻教授	第三部会員
大島 まり	東京大学大学院情報学環/生産技術研究所教授	第三部会員
沖 大幹	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員、第三部幹事
小澤 徹	早稲田大学理工学術院先進理工学部応	第三部会員

	用物理学科教授	
金子 真	名城大学理工学研究科教授	第三部会員
北川 尚美	東北大学大学院工学研究科教授	第三部会員、第三部幹事
腰原 伸也	東京工業大学理学院教授	第三部会員
小林 潔司	京都大学名誉教授/京都大学経営管理大学院特任教授・客員教授	第三部会員
小山田 耕二	京都大学学術情報メディアセンター教授	第三部会員
齋藤 政彦	神戸学院大学経営学部教授	第三部会員
佐竹 健治	東京大学地震研究所地震火山情報センター教授	第三部会員
田近 英一	東京大学大学院理学系研究科・教授	第三部会員
田辺 新一	早稲田大学創造理工学部建築学科教授	第三部会員
谷口 倫一郎	九州大学理事・副学長	第三部会員
玉田 薫	九州大学主幹教授・副学長	第三部会員
茶谷 直人	大阪大学名誉教授	第三部会員
中川 聡子	東京都市大学名誉教授	第三部会員
中野 義昭	東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻教授	第三部会員
野尻 美保子	高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所教授	第三部会員
菱田 公一	明治大学研究・知財戦略機構特任教授	第三部会員、副会長
山口 周	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部特任教授	第三部会員
吉村 忍	東京大学副学長、大学院工学系研究科教授	第三部会員、第三部部長
米田 雅子	東京工業大学環境・社会理工学院特任教授	第三部会員、第三部副部長

【設置：第 334 回幹事会（令和 4 年 12 月 8 日）、決定後の委員数：25 名】

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会設置要綱（令和 3 年 6 月 24 日日本学術会議第 313 回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前
<u>(分科会)</u>				(新規設置)
第 4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。				
<u>分 科 会</u>	<u>調査審議事項</u>	<u>構 成</u>	<u>備 考</u>	
我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会・学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会合同少子化時代のサステナブルな学術環境・エコシステムに関する分科会	1.学術活動を支える学術環境と学術エコシステムの現状とその将来像に関する審議 2.将来の学術コミュニティ、学術活動の成果発信等の学術環境の在り方に関する審議に関すること	20 名以内の会員又は連携会員	設 置 期 間：令和 5 年 2 月 22 日～令和 5 年 9 月 30 日	
(設置期限)				(設置期限)
第 5 (略)				第 4 (同左)

(庶務) <u>第 6</u> (略) (雑則) <u>第 7</u> (略)	(庶務) <u>第 5</u> (同左) (雑則) <u>第 6</u> (同左)
--	--

附 則（令和 年 月 日 日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会設置要綱（令和３年１月２８日日本学術会議第３０７回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後				改 正 前
<u>（分科会）</u> <u>第４ 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。</u>				(新規設置)
<u>分 科 会</u>	<u>調査審議事項</u>	<u>構 成</u>	<u>備 考</u>	
我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会・学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会合同少子化時代のサステナブルな学術環境・エコシステムに関する分科会	<u>１．学術活動を支える学術環境と学術エコシステムの現状とその将来像に関する審議</u> <u>２．将来の学術コミュニティ、学術活動の成果発信等の学術環境の在り方に関する審議に関すること</u>	20 名以内の会 員又は連携会 員	設 置 期 間：令和 5 年 2 月 22 日～令和 5 年 9 月 30 日	
（設置期限） <u>第 5</u> （略）				（設置期限） <u>第 4</u> （同左）

(庶務) <u>第 6</u> (略) (雑則) <u>第 7</u> (略)	(庶務) <u>第 5</u> (同左) (雑則) <u>第 6</u> (同左)
--	--

附 則（令和 年 月 日 日本学術会議第 回幹事会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会・学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会合同分科会の設置について

分科会等名：少子化時代の持続可能な学術環境・エコシステムに関する分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会 学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	日本学術会議は、我が国の研究力向上に向けた学術政策の在り方について中長期的・俯瞰的に検討するために我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会を設置し、学術政策について科学的な解析と批判的評価を行っている。また、広く学術活動を支える学協会や成果の流通を支える学術情報環境について検討するために、学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会を設置している。 現在、学術成果の量的拡大を目指した様々な政策が実施されようとしているが、急速に進む少子化の中で学術を支える学術活動の縮退が進行しており、学術エコシステムの持続ナビリティも疑われる状況に陥りつつある。これまで機能してきた学術活動を支えるシステムの機能不全が危惧される状況にあり、個々の科学者の学術活動を損なう可能性も指摘されるなかで、学術活動のシステム全体を新たな視点で再構築し、多様な学術活動を支える新しい環境を創り出す必要がある。 今後の学術システムの在り方を審議するために、関連する上記2つの課題別委員会が協力して俯瞰的な検討を行うことが有効と考えられるため、新たな学術環境と学術エコシステムの在り方に関する審議を目的とする合同分科会を設置する。
4	審議事項	1. 学術活動を支える学術環境と学術エコシステムの現状とその将来像に関する審議 2. 将来の学術コミュニティ、学術活動の成果発信

		等の学術環境の在り方に関する審議 に関すること
5	設 置 期 間	令和 5 年 2 月 22 日～令和 5 年 9 月 30 日
6	備 考	※新規設置

【課題別委員会】

○分科会委員の決定（新規1件）

（我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会・学術情報のデジタルトランスフォーメーションを推進する学術情報の基盤形成に関する検討委員会合同
少子化時代の持続可能な学術環境・エコシステムに関する分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小長谷 有紀	独立行政法人日本学術振興会監事	第一部会員
西山 慶彦	京都大学経済研究所教授	第一部会員
小林 武彦	東京大学定量生命科学研究科教授	第二部会員
高山 弘太郎	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授、愛媛大学大学院農学研究科教授	第二部会員
山本 晴子	独立行政法人医薬品医療機器総合機構 医務管理監・理事長特任補佐	第二部会員
腰原 伸也	東京工業大学理学院教授	第三部会員
田近 英一	東京大学大学院理学系研究科・教授	第三部会員
菱田 公一	明治大学研究・知財戦略機構特任教授	第三部会員、副会長
山口 周	独立行政法人大学改革支援・学位授与 機構研究開発部特任教授	第三部会員
加藤 忠史	順天堂大学医学部精神医学講座主任教授	連携会員
川口 慎介	国立研究開発法人海洋研究開発機構地球環境部門主任研究員	連携会員
下田 正弘	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員
林 隆之	政策研究大学院大学教授	連携会員
吉見 俊哉	東京大学大学院情報学環教授	連携会員

【設置予定：第339回幹事会（令和5年2月22日）、決定後の委員数：14名】

令和 5 年度代表派遣実施計画（案）

<第 1 区分>

番号	会 議 名	会 期	開 催 地	派遣人数
1	第 25 回 AASSREC 総会	2023/6/14～2023/6/16	ソウル (韓国)	1
2	第 28 回国際測地学地球物理学連合 (IUGG) 総会及び IAGA 代表者会 議等	2023/7/11～2023/7/20	ベルリン (ドイツ)	1
3	第 28 回太陽地球系物理学科学委員 会 (SCOSTEP) 総会	2023/7/11～2023/7/20	ベルリン (ドイツ)	1
4	第 21 回国際第四紀学連合大会 (INQUA) 総会等	2023/7/13～2023/7/20	ローマ (イタリア)	1
5	第 31 回国際地図学会議 (ICA) 総会 等	2023/8/13～2023/8/18	ケープタウン (南アフリカ)	1
6	第 52 回 IUPAC 総会および第 49 回 世界化学会議	2023/8/18～2023/8/25	オランダ (ハーグ)	1
7	国際結晶学連合 (IUCr) 総会等	2023/8/22～2023/8/29	メルボルン (オーストラリア)	1
8	第 12 回国際都市土壌会議 (IUSS) 総会	2023/9/4～2023/9/7	サンチアゴ・デ・コンポステーラ (スペイン)	1
9	海洋研究科学委員会 (SCOR) 総会等	2023/10/18～2023/10/22	グアヤキル (エクアドル)	1
10	CODATA 総会および国際データウ ィーク	2023/10/23～2023/10/28	ザルツブルグ (オーストリア)	1
				10

<第 2 区分>

番号	会 議 名	会 期	開 催 地	派遣人数
1	ISC メンバーズミーティング	2023/5/10～2023/5/12	パリ (フランス)	1
2	変動する太陽地球結合系の予測可能 性 (PRESTO) に関する SCOSTEP- UN-ISWI ワークショップ	2023/5/29～2023/6/2	トリエステ (イタリア)	1
3	南極研究科学委員会 (SCAR) 医学医 療合同専門部会 (JEGHBM) 年次会合	2023/6/23～2023/6/29	ホバート (オーストリア)	1

番号	会 議 名	会 期	開催地	派遣人数
4	第 17 回科学・技術の哲学、方法論及び論理国際会議	2023/7/24～2023/7/29	ブエノスアイレス (アルゼンチン)	1
5	国際科学史技術史科学基礎論学会連 合／科学史技術史部門 (IUHPST/DHST) 評議会	2023/12/8～2023/12/9	オンライン	1
6	第 80 回国際地質科学連合 (IUGS) 理事会及び執行理事事務局会議	2024/2/12～2024/2/16	バンクーバー (カナダ)	1
7	北極科学サミット週間 2024	2024/3/21～2024/3/29	エジンバラ (英国)	1
				7

<第 3 区分>

番号	会 議 名	会 期	開 催 地	派遣人数
1	第 13 回グローバルヤングアカデミ ー (GYA) 総会	2023/6/5～2023/6/9	キガリ (ルワンダ)	1
2	第 14 回国際人権ネットワーク隔年 総会	2023 年 6 月頃	プレトリア (南アフリカ)	1
3	第 4 回国際層序会議 STRATI2023	2023/7/11～2023/7/13	リール (フランス)	1
4	サイエンス 20 (S20) 2023	2023/7/21～2023/7/22	コインバトール (インド)	1
5	国際宗教学宗教史学会 (IAHR) 臨時 理事会等	2023/8/30～2023/9/7	ヴィリニユス、クラフク (リトアニア・ポーランド)	1
6	国際人類学民族科学連合 (IUAES) 2023 年総会、役員会等	2023/10/14～2023/10/28	デリー、ボンディシェリ、 ハイデラバード、コルカタ (インド)	1
7	第 10 回アジアオセアニア生理学会 連合 (FAOPS) 会議	2023/10/31～2023/11/4	大邱広域市 (韓国)	1
8	世界科学フォーラム運営委員会	2023 年冬頃	ブダペスト (ハンガリー)	1
9	G サイエンス学術会議 2024	2024 年 3 月頃	ローマ (イタリア)	1
10	アジア科学アカデミー・科学協会連 合特別委員会 (Sustainability)	未定	未定 (未定)	1
				10

令和5年度代表派遣実施計画の派遣者の決定について

以下のとおり、令和5年度代表派遣実施計画の派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	ISC メンバーズミーティング	5月10日 ～ 5月12日	パリ (フランス)	高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センター教授)	国際委員会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
2	変動する太陽地球結合系の予測可能性(PRESTO)に関するSCOSTEP-UN-ISWIワークショップ	5月29日 ～ 6月2日	トリエステ (イタリア)	塩川 和夫 ※ — (名古屋大学宇宙地球環境研究所教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
3	第13回グローバルヤングアカデミー(GYA)総会	6月5日 ～ 6月9日	キガリ (ルワンダ)	岩崎 渉 連携会員 (東京大学大学院新領域創成科学研究科先端生命科学専攻教授)	若手アカデミー国際分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
4	第25回 AASSREC 総会	6月14日 ～ 6月16日	ソウル (韓国)	日比谷 潤子 第一部会員 (聖心女子学院常務理事、国際基督教大学名誉教授)	第一部国際協力的分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
5	南極研究科学委員会(SCAR)医学医療合同専門部会(JEGHBM)年次会合	6月23日 ～ 6月29日	ホバート (オーストリア)	大野 義一郎 ※ — (北海道立天売診療所所長)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
6	第 28 回国際測地学地球物理学連合 (IUGG) 総会及び IAGA 代表者会議等	7月 11 日 ～ 7月 20 日	ベルリン (ドイツ)	東 久美子 連携会員 (情報・システム研究機構国立極地研究所教授)	地球惑星科学委員会 IUGG 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
7	第 28 回太陽地球系物理学科学委員会 (SCOSTEP) 総会	7月 11 日 ～ 7月 20 日	ベルリン (ドイツ)	塩川 和夫 ※ — (名古屋大学宇宙地球環境研究所教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
8	第4回国際層序会議 STRATI2023	7月 11 日 ～ 7月 13 日	リール (フランス)	松岡 篤 ※ — (新潟大学教育研究院自然科学系教授)	地球惑星科学委員会 IUGS 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
9	第 21 回国際第四紀学連合大会 (INQUA) 総会等	7月 13 日 ～ 7月 20 日	ローマ (イタリア)	小口 高 連携会員 (東京大学空間情報科学研究センター教授)	地球惑星科学委員会地球惑星科学国際連携分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
10	サイエンス 20 (S20) 2023	7月 21 日 ～ 7月 22 日	コインバトール (インド)	高村 ゆかり 第一部会員 (東京大学未来ビジョン研究センター教授)	国際委員会	・派遣者の決定 ※現地出席予定
11	第 17 回科学・技術の哲学、方法論及び論理国際会議	7月 24 日 ～ 7月 29 日	ブエノスアイレス (アルゼンチン)	岡田 光弘 ※ — (慶応義塾大学名誉教授)	史 学 委 員 会 IUHPST 分科会	・派遣者の決定 ※現地出席予定

※の派遣候補者は、特任連携会員に承認されることを条件とする。

新型コロナ感染症の影響下における代表派遣者の現地派遣方針について

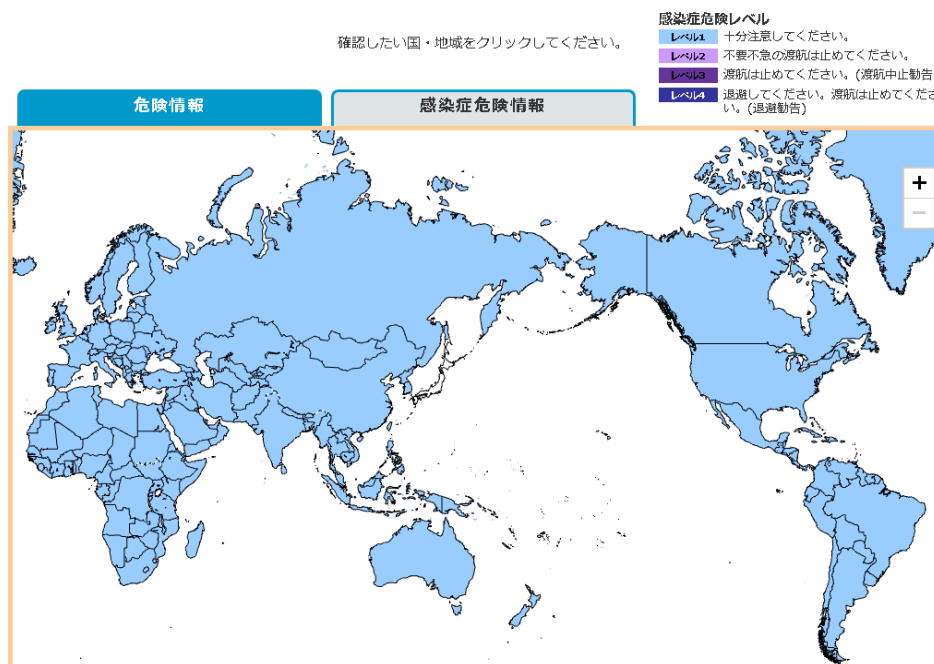
令和 5 年 2 月 22 日

1. 令和 4 年度代表派遣の対応

第 322 回幹事会（令和 4 年 2 月 24 日）に「新型コロナ感染症の影響下における代表派遣者の現地派遣方針（案）」が承認された。これは、外務省が発出する感染症危険情報を旅行命令発令可否の指標として留意しつつ、代表派遣者が、特に現地出席を希望する場合には、日本学術会議として、対面で学術交流を行うことの重要性に鑑み、現地出席する意義や感染リスク等を総合的に判断し、旅行命令を発出するため、新型コロナ感染症等対策調書の提出を派遣者に求めるものである。

2. 現在の情勢と派遣の検討に際して考慮すべき事項

- 令和 4 年 10 月以降、外務省の感染症危険情報では、各国がレベル 1「十分注意してください」になっている。



- 内閣府は、感染症危険レベル 2～3 の国が多数あった状況でも渡航見合わせ等の一律の要請は行っておらず、外務省や厚労省の指針に留意しながら部局が事案に応じて判断してきた。今後また感染拡大が発生すれば同様の対応を行う必要がある。

3. 今後の対応方針

- 第 322 回幹事会で承認された派遣方針を廃止する。
- ただし、外務省の感染症危険情報や厚労省の水際対策情報に留意し、今後感染症危険レベルが引き上げられる場合は対応を検討することとする。

(参考)

新型コロナウイルス感染症の影響下における代表派遣者の現地派遣方針（案）

令和4年2月24日

1. 事案

第321回幹事会（令和4年1月27日）で、「第77回国際地質科学連合(IUGS)理事会及び事務局会議（令和4年3月12日～3月19日、フランス）」への北里洋特任連携会員（早稲田大学教育総合科学学術院招聘研究員）の派遣、並びに「北極科学サミット週間 2022、国際北極科学委員会(IASC)評議員会（令和4年3月26日～4月1日、ノルウェー）」への榎本浩之特任連携会員（情報・システム研究機構国立極地研究所教授）の派遣が決定された。その後、両特任連携会員からそれぞれ、会議は、ハイブリッド形式で行われるものの、北里特任連携会員は当該団体の財務理事を、榎本特任連携会員は当該委員会の副会長職を務めることもあり、現地参加が期待されているため、現地出席したい旨申し出があった¹。

外務省は、同国に対し、感染症危険情報のレベル3の「渡航中止勧告」を発出しており²、解除の見通しは立っていないことから、榎本特任連携会員の旅行命令の発令の可否について検討する必要がある。

なお、2020年3月以降、代表派遣で現地出席したケースはない。

2. 現地派遣の検討に際して考慮すべき事項

- 昨年イタリアで開催されたS20、今年ドイツで開催予定のGサイエンス学術会議に見られるように、特に、ヨーロッパ各国では対面（または補完的にオンラインを組み合わせたハイブリッド形式）で学術交流を行うケースが増えている。他の国が現地出席する中、日本の代表派遣者が対面でのコミュニケーションがとれず不利益を被るおそれがある。なお、会議によっては数年に1回しかないものもあることに留意。
- 特に、国際学術団体等において役職を務める者にとっては、役職に応じた役割を果たすために対面で出席できることの重要性は高い。
- 他方、外務省の「渡航中止勧告」とは異なる判断を学術会議として独自に行うことになる。これについて、内閣府は、渡航見合わせ等の一律の要請は行っておらず、部局が事案に応じて判断しており、学術会議として判断する必要。
- また、渡航者の感染リスクについて十分に考慮する必要がある、渡航者に対して感染対策の徹底を求めることが必要。

¹ 国際地質科学連合 2021 理事会等は、2021 年 2 月にパリで開催され、北里特任連携会員は、オンライン参加。同 2020 会議は 2020 年 1 月に釜山で開催され、同会員は現地参加。同 2021 会議は 2021 年 3 月にリスボンで開催され、榎本特別連携会員はオンライン参加。同 2020 会議は 2020 年 3 月にアイスランドで開催され、同会員はオンライン参加。

² 欧州では全ての国がレベル 3 に指定されている。

3. 対応方針

- 外務省の感染症危険情報に留意しつつ、代表派遣者が、特に現地出席を希望する場合には、日本学術会議として、対面で学術交流を行うことの重要性に鑑み、現地出席する意義や感染リスク等を総合的に判断し、旅行命令を発出する。
- 派遣者には、徹底した感染症対策（ワクチン接種、マスクの着用、大人数での会食の回避、渡航先での検疫措置及び帰国後の隔離指示の遵守等）を求めることを条件とし、別紙の提出を求める。

国際測地学および地球物理学連合(IUGG)総会等にかかる出張者への 信任状の発出について

①審議内容

IUGG 総会及び IUGG 傘下の8つのアソシエーションの会議(ともに本年7月ベルリンで開催)に参加する日本の代表者のリストを2月 11 日までに IUGG 事務局に返送する必要があり、2月6日までに分科会委員長へ会長または副会長が電子署名した信任状の提出を求められた。(5)に挙げる8名を、学術会議を代表して投票権を行使する者として指名したことを追認する(国際内規第 23 条)。

なお、本件は、2月3日に幹事会メンバーに対し、2月 22 日幹事会で追認の審議を行う旨を意見照会したところ、手続き停止を求める意見等はなかったことから、2月6日に信任状を分科会委員長へ発出した。

※本件は地球惑星科学委員会 IUGG 分科会・東久美子委員長より、1月 22 日に依頼されたもの。

②信任対象となっている8名

	代表者	日学との関係	会員情報
IUGG Council Delegate	東 久美子	IUGG 分科会委員長	連携会員
IACS Delegate(氷雪学)	東 久美子	IUGG 分科会委員長	連携会員
IAG Delegate(測地学)	古屋 正人	IUGG 分科会委員	連携会員
IAGA Delegate(地球電磁気学)	LIU Huixin	IAGA 小委員会副委員長	
IAHS Delegate(陸水学)	辻村 真貴	IUGG 分科会委員	連携会員(特任)
IAMAS Delegate(気象学)	中村 尚	IUGG 分科会委員	連携会員
IAPSO Delegate(海洋学)	日比谷 紀之	IUGG 分科会委員	連携会員
IASPEI Delegate(地震学)	井出 哲	IAPSE 小委員会委員	
IAVCEI Delegate(火山学)	中田 節也	IUGG 分科会副委員長	連携会員

※小委員会は地球惑星科学委員会 IUGG分科会に属する。

※令和5年度代表派遣者は東久美子連携会員が推薦され(23 条1項対象)、

他7名(古屋正人、LIU Huixin、辻村真貴、中村尚、日比谷紀之、井出哲、中田節也)は
23 条2項規定の対象

※幹事会に提案する根拠規定

(日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規)

第23条 会長は、代表派遣会議が加入国際学術団体の総会で派遣者に投票権が付与されている場合には、幹事会の議決を経て、当該派遣者を学術会議を代表して投票権を行使するものとして指名するものとする。

2 会長は、前項の投票権が複数あって、これを行行使するための複数の派遣者を派遣することが困難な場合には、派遣者以外の者をもって前項の学術会議代表に指名することができる。この場合にあっては、関係委員長は、会員又は連携会員の中から適任者を会長に推薦するものとする。ただし、やむを得ない事情がある場合は、会員及び連携会員以外の者で適任者を推薦することができる。

3 会長は、前項の推薦があった場合は第1項の指名と併せて幹事会の承認を得るものとする。

4 第1項及び前項の幹事会の承認を得て投票権を行行使する者は、投票権の行使に当たっては、会長及び国内委員会と十分連絡を取って行わなければならない。

③過去の対応実績

IUGG 総会等への出席には、過去にも信任状の提出を求められている。

	署名者	署名・信任内容	依頼日	信任状発出
2011 (H23)	唐木副会長	IUGG 総会期間中に開催される IUGG 理事会に出席する日本代表者4名への信任状を発出すること	不明	不明
2015 (H27) 1月	大西会長	IUGG 総会および8アソシエーション総会に参加する日本代表者の信任状の発出 ※第 208 回(平成 27 年 1 月 29 日)幹事会承認	H26.12.24	H27.1.29 (期限 2.1)
2015 (H27) 11月	大西会長	IUGG における規約改正による信任状の発出について(同年7月総会での法規改正に伴い、誰が次の総会までの間加盟国の投票権のある代表者であるかを示す信任状を送って欲しいとの要望) ※第 221 回(平成 27 年 11 月 27 日)幹事会承認	H27.10.20	H27.11.27 (期限 12.1)
2019 (H31) 1月	武内副会長	IUGG 総会および IUGG 傘下8アソシエーション総会計9件について日本代表者の信任状を発出すること	H29.1.17	H29.1.31 (期限 2.5)

●令和5年度アジア学術会議に関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（案）

〔 令 和 5 年 月 日 〕
〔 日本学術会議第 回幹事会決定 〕

アジア学術会議は、アジア域内での学術交流と協力を促進する基盤を提供し、全体論的な展望と構想を作り、その実現を諮ることを目的としており、その目的の達成は、アジア域内の各国において参加国間の連絡調整を行い、学術に関する研究発表及び討論等を行う会議を開催することにより行うこととなっている。

アジア学術会議においては、日本学術会議が事務局を担っていること、また、日本学術会議会員等が事務局長を務めていることから、令和5年度の国際会議等への代表者の派遣は下記の方針に基づいて行う。

(1) 第1区分

- ・アジア学術会議大会（国際シンポジウム、理事会、国際共同プロジェクト・ワークショップ等で構成）に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。

(2) 第2区分

- ・アジア学術会議の開催・運営に関する会議である、アジア学術会議役員会議等に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。
- ・次年度以降の開催準備に係る調整及び事前調査等に、アジア学術会議事務局長を含む会員等を派遣する。

(3) 第3区分

- ・アジア学術会議の加盟機関拡大のため、アジア学術会議事務局長を含む会員等を非加盟機関本部等に派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

令和5年度アジア学術会議関連会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			

●令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

(案)

〔 令 和 年 月 日 〕
〔 日本学術会議第 回幹事会決定 〕

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、令和5年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、国際事務局の一部として機能している日本ハブに対し、日本学術会議がその主要支持機関として関わっていること、また、日本学術会議連携会員が国際事務局日本ハブ事務局長を務めていることから、令和5年度の内規第55条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第1区分

- ・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である総会 (Assembly)、評議会 (GC: Governing Council)、国際事務局が行う会議へ、国際事務局日本ハブ事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・本年度、オンライン開催を含め、総会は1回程度、GCは4回程度、国際事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。

(2) 第2区分

- ・フューチャー・アースの実施に当たり、国際事務局が行う会議へ国際事務局日本ハブ事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・具体的には、日本学術会議の会員等がその推進に携わるグローバル研究ネットワーク (GRNs: Global Research Networks) に関する会議等への派遣を行う。
- ・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第3区分

- ・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際事務局日本ハブ事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・上記に当たっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりが必要なものを優先する。
- ・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のグローバル研究ネットワーク (GRNs: Global Research Networks) に関する会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

令和5年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			

○学術フォーラム及び土日祝日に講堂を使用するシンポジウム等
【令和5年度第1四半期】（追加）

<概要>

1. 日本学術会議主催学術フォーラム

- (1) 経費負担を要するものは、原則として年間15件程度
(2) 経費負担又は職員の人的支援を要するものは、四半期ごとに計4件まで
(3) 土日祝日開催のものは、四半期ごとに2件まで

○今回提案【令和5年度第1四半期】 追加1件（計2件）

	提案番号	テーマ	開催希望日時	開催場所	経費負担	職員の 人的支援
1	提案9	「オープンサイエンス、データ駆動型研究で変わる科学と社会（仮）」 （企画：オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会）	令和5年5～6月	オンライン開催	要	要

（参考）

■今回提案を含めた合計数

1. 学術フォーラム（開催曜日未定2件）

（内訳）※当該2件について、経費又は人的負担要

		第1四半期 （4月～6月）	第2四半期 （7月～9月）	第3四半期 （10月～12月）	第4四半期 （1月～3月）
学術フォー ラム	（土日）				
	（平日）				
	（開催曜日 未定）	2			
合計		2			

日本学術会議主催学術フォーラム
「オープンサイエンス、データ駆動型研究で変わる科学と社会（仮）」
の開催について（案）

1. 主 催：日本学術会議

2. 日 時：令和5年5～6月

3. 場 所：オンライン

4. 委員会等の開催：なし

5. 開催趣旨：

日本学術会議は総合科学技術・イノベーション会議からの審議依頼を受けて、昨年末に“「回答」研究DXの推進—特にオープンサイエンス、データ利活用推進の視点から—に関する審議について”を発出した。この回答では、研究データの共有・公開も含めたオープンサイエンスに対する日本学術会議としての考え方を示し、大学等研究機関における研究データ管理・利活用のための課題の整理と具体的方策に関する提言、ならびに、各分野の多様性を踏まえ、今後のデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項についての提言を行った。

このフォーラムでは、この回答の背景にある、オープンサイエンスとデータ駆動型研究の可能性を改めて啓発し、また、先導事例を通じてアカデミアと関係者の具体的な行動変容に繋げる。加えて、学術の持つ本来の多様性と本質を踏まえ、今回の回答の構成上、触れることが難しかった点なども紹介し、学術の将来に向けた多角的な議論を行い、明日の学術を創る原動力づくりとする。

6. 次 第： ※ 講演者、講演タイトルは現在調整中

<午前の部> 司会 筑本 知子（日本学術会議第三部会員、中部大学超伝導・持続可能エネルギー研究センター教授）

10:15 開会の挨拶

菱田 公一（日本学術会議副会長、第三部会員、明治大学研究・知財戦略機構特任教授）

10:20 趣旨説明・回答までの経緯：

喜連川 優（日本学術会議連携会員、オープンサイエンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討委員会委員長）

10:45 CSTI からの話題提供

* タイミングにもよるが G7 科学技術大臣会合の内容を絡める。

[セッション1] (各部からの先導事例の紹介)

11:05 スロット 1-1: 阪本 拓人 (東京大学大学院総合文化研究科教授)
国際・安全保障の取り組み (社会学)

11:40 スロット 1-2: 桜田 一洋 (慶應義塾大学医学部教授)
健康・医療の情報化(DX 化)によるデータ統合・共有

12:05 スロット 1-3: 高橋 恒一 (理化学研究所生命機能科学研究センターチー
ムリーダー)

または

一杉 太郎 (東京大学大学院理学系研究科化学専攻教授)

ARW (Automated Research Workflow) によるゲームチェンジ

12:45 休憩

<午後の部> 司会 林 和弘 (日本学術会議連携会員 (特任)、オープンサイエ
ンスを推進するデータ基盤とその利活用に関する検討
委員会副委員長)

[セッション2] (学術の多様性、回答に入れられなかった論点の紹介、海外動向、
サポーティングスタッフに関する話題など)

14:15 スロット 2-1: 木部 暢子 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法
人人間文化研究機構長)

(人文社会学の観点より)

14:45 スロット 2-2: 藤嶋 誠 (DMG 森精機株式会社取締役副社長)
(企業の観点より)

15:15 スロット 2-3: 海外動向 (EOSC or OSTP)

15:45 スロット 2-4: 山地 一禎 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機
構国立情報学研究所オープンサイエンス基盤
研究センターセンター長・教授)

(インフラの観点より)

船守 美穂 (大学共同利用機関法人情報・システム研究機
構国立情報学研究所情報社会相関研究系准教
授)

(組織、人材の観点より)

16:15 休憩

[セッション3] このフォーラムで伝えたいことを前提としたパネル

16:30 パネルディスカッション

モデレータ: 喜連川 優 (前掲)

パネリスト: (講演者の中からスケジュールの都合も併せて設定)

三枝 信子 (日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人

国立環境研究所地球システム領域領域長)

17:30 閉会の挨拶

武田 洋幸 (日本学術会議第二部会員、東京大学執行役・副学長、大学
院理学系研究科教授)

(下線は、日本学術会議関係者)

公開シンポジウム
「農芸化学分野における『見る・創る』イノベーションの新潮流」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同農芸化学分科会、公益社団法人日本農芸化学会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）3月15日（水）16：00 ～ 18：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

農芸化学は生命・食・環境に関する幅広い分野にわたる学問分野であり、その研究手法は日々進化している。生命現象を解析するに当たり、iPS細胞の創出やゲノム編集技術の開発がもたらした細胞の性質を遺伝子レベルで改変する技術の貢献が大きいのは勿論のこと、細胞を構成する様々な物質の構造を知り、化学反応を明らかにするための分析化学の手法にも多くの革新が見られる。生命現象を解明し高度利用や創薬に取り組むためには、遺伝子改変によるタンパク質発現調節の先にある、様々な物質がもたらす分子間相互作用を解析することが必須である。また、生物に由来する食品成分の生理機能性、食品の美味しさや物性発現の原理を明らかにすることや、高品質の食品を創出するための高度な加工技術を開発することも農芸化学における重要な命題である。そこで、これまで非常に困難であった複合糖鎖の合成技術の開発や、新しいオミクス技術、in vivo 質量分析イメージングなどの最先端研究手法とその応用展開、非破壊的な解析を可能とする独創的な分光分析手法や、AI を利用した食品の品質予測と開発に関する研究など、新進気鋭の若手研究者たちの「見る・創る」ための最先端研究を紹介いただくシンポジウムを企画した。本シンポジウムは、農芸化学の多様な研究領域を内包し、今後の農芸化学分野の発展に大いに寄与すると期待される。

9. 次 第：

16:00-16:10

はじめに：室田 佳恵子（島根大学生物資源科学部教授）

趣旨説明：熊谷 日登美（日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部教授、公益
社団法人日本農芸化学会フェロー）

16:10-16:35

「シアル酸含有糖鎖の化学合成とケミカルバイオロジーへの応用」

河村 奈緒子（岐阜大学糖鎖生命コア研究所助教）

座長：吉永 直子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科助教）

16:35-17:00

「チロシン残基の状態観測を目指したケミカルプロテオミクス」

佐藤 伸一（東北大学学際科学フロンティア研究所助教）

座長：熊谷 日登美（日本学術会議第二部会員、日本大学生物資源科学部教授、公益社団
法人日本農芸化学会フェロー）

17:00-17:25

「質量分析イメージングが明らかにする脂質代謝動態」

井上 菜穂子（日本大学生物資源科学部准教授）

座長：大田 ゆかり（群馬大学食健康科学教育研究センター講師）

17:25-17:35 （休憩）

17:35-18:00

「分光分析で生命の輝きを視る」

石垣 美歌（島根大学戦略的研究推進センター助教）

座長：室田 佳恵子（島根大学生物資源科学部教授）

18:00-18:25

「AIを用いた食品の品質予測と品質を支配する機構の解明」

小川 剛伸（京都大学大学院農学研究科助教）

座長：裏出 令子（京都大学名誉教授、公益社団法人日本農芸化学会フェロー）

18:25-18:30

おわりに：裏出 令子（京都大学名誉教授、公益社団法人日本農芸化学会フェロー）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム

「第 15 回防災減災学術連携シンポジウム

『気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開』」の開催について

1. 主 催：日本学術会議防災減災学術連携委員会
2. 共 催：一般社団法人防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）4 月 11 日（火）13:00 ～ 17:00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：なし

8. 開催趣旨：

関東大震災から 100 年に当たり、地震災害とともに、私たちに迫りくる気候変動に伴う災害に対しても、意識の向上や災害対策を進めていくことが重要である。近年、台風・豪雨災害が毎年発生し、猛暑を含め異常気象による災害リスクも深刻となっており、世界各地でも熱波や洪水・干ばつ等、地球温暖化の進行も反映して災害が頻発している。さらに、国土と社会構造の変化に対応して災害の態様も変化してきている。このような状況も踏まえて、災害対策や防災研究を進めていく必要がある。このため、日本学術会議防災減災学術連携委員会と、62 学協会等で構成する防災学術連携体は、「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開」をテーマに公開シンポジウムを開催する。

シンポジウムでは、防災に関わる学協会の専門家が集い、気候変動がもたらす災害リスク、避難・救命救助・復旧活動等の防災対応、国土利用・まちづくりなど災害対策についての最新の研究・取組を共有し、今後の災害対策・防災研究のあり方を議論・展望する有意義な機会としたい。

9. 次 第：

司会 田村 和夫（日本学術会議連携会員、一般社団法人防災学術連携体幹事、建築都市耐震研究所代表）

永野 正行（日本学術会議連携会員、東京理科大学理工学部建築学科教授）

13:00 趣旨説明 米田 雅子（日本学術会議第三部会員、日本学術会議防災減災学術連携
委員会委員長、東京工業大学環境・社会理工学院特任教授）

13:05 来賓挨拶 榊 真一（内閣府政策統括官（防災担当））

13:10 セッション1 「気候変動にともなう災害リスク研究の新展開」

「急速に気候変動が進む北極圏の斜面災害ーグリーンランド北西部の現地活動から」
公益社団法人日本地すべり学会 山崎 新太郎（京都大学防災研究所准教授）

「地球温暖化に伴う台風とそれがもたらす豪雨の将来変化」

公益社団法人日本気象学会 金田 幸恵（名古屋大学宇宙地球環境研究所特任助教）

「酷暑のメカニズムを気候学の立場から問い直す」

公益社団法人日本地理学会 日下 博幸（筑波大学計算科学研究センター教授）

「地域に遺された災害のヒントの時空間情報化」

日本地図学会 遠藤 宏之（(株)ネクストパブリッシング副編集長）

「多発する豪雨災害に対するリスク軽減の応用地質学的アプローチ」

一般社団法人日本応用地質学会 稲垣 秀輝（株式会社環境地質代表取締役会長）

「気候変動がもたらす地盤災害リスクの増加と地盤工学的解決策への展望」

公益社団法人地盤工学会 村上 哲（福岡大学工学部教授）

14:27 休憩

14:40 セッション2 「避難・救命救助・復旧活動などの防災対応の新展開」

「地球観測技術による気候変動がもたらす災害対応への最前線」

一般社団法人日本リモートセンシング学会 伊東 明彦（株式会社ツクリエインキュ
ベーションマネジャー）

「近年の災害における被災地域での医薬品供給体制の新展開」

一般社団法人日本災害医学会 江川 孝（福岡大学薬学部教授）

「災害対応型の建物統合管理システムを活用した地域の災害情報マネジメント」

一般社団法人日本建築学会 増田 幸宏（芝浦工業大学システム理工学部教授）

「令和4年8月豪雨災害における初期から中長期支援活動」

日本災害看護学会 酒井 明子（前福井大学医学部看護学科教授）

「化学・石油プロセス産業における，自然災害による被害と，その影響への対応」

特定非営利活動法人安全工学会 石丸 裕（大阪大学ビジネスエンジニアリング
専攻特任教授）

「廃棄物処理システムに係るレジリエンス向上に向けた国際展開」

一般社団法人廃棄物資源循環学会 多島 良（国立研究開発法人国立環境研究所
資源循環領域主任研究員）

15:47 セッション3 「国土利用・まちづくりなどの災害対策の新展開」

「語りから始まる人間復興のまちづくりー小高まちあかりプロジェクトー」

日本地域経済学会 山川 充夫（日本学術会議連携会員、福島大学名誉教授・
客員教授）

「高強度の降雨に対応する斜面緑化を考える」

日本緑化工学会 橘 隆一（東京農業大学地域環境科学部教授）

「気候変動下の洪水適応オプションと地域性」

公益社団法人土木学会 風間 聡（東北大学土木工学専攻教授）

「気候変動と水害リスク：少子高齢化と災害環境の激甚化を見据えて今何をなすべきか（仮）」

日本自然災害学会 多々納 裕一（日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所
社会防災研究部門教授）

「まちづくり、都市計画における災害対策の今後の方向性」

公益社団法人都市計画学会 加藤 孝明（東京大学生産技術研究所教授）

16:43 質疑応答

司会 公益社団法人日本気象学会 橋田 俊彦（一般社団法人防災学術連携体幹
事、第25代気象庁長官）

16:55 閉会挨拶

公益社団法人都市計画学会 森本 章倫（一般社団法人防災学術連携体代表幹事、
早稲田大学理工学術院教授）

10. 関係部の承認の有無：課題別委員会のため該当なし

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム
「第 69 回構造工学シンポジウム」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会
2. 共 催：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）4 月 15 日（土）～ 16 日（日）
5. 場 所：東京工業大学大岡山キャンパス西 9 号館（東京都目黒区大岡山 2-12-1）
（予定）（ハイブリッド開催予定）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

構造工学シンポジウムでは、主として土木構造・建築構造物に関わるすべての工学技術について、目的・方法・結論等の明記された、理論的又は実証的な研究論文、あるいは新しい知見を含み学術的に価値の高い、特色のある資料・調査・計画・実験・施工等、構造工学の発展に寄与すると考えられる論文の募集を行う。査読を通過した論文の発表講演に加え、特別講演とパネルディスカッションを行う。

第 69 回目となる今回は、構造工学分野におけるカーボンニュートラルに向けた取組に焦点を当てた特別講演、パネルディスカッションを行う。国内の温暖化ガスの排出を実質ゼロにするというカーボンニュートラルの実現に向けて、国や企業、大学による脱炭素技術の開発や制度・基準の制定などの取組が本格化している。構造工学分野においても、環境に配慮した材料の活用や再利用、再生可能エネルギーの活用に向けた技術開発など、幅広い観点の取組が始まっている。カーボンニュートラルに関する国の取組や考え方のほか、構造工学分野における最新の状況を理解し、カーボンニュートラルに今後どのように取り組んでいけばよいか考える場としたい。

なお、特別講演に先立ち「日本学術会議土木工学・建築学委員会の 2019 年提言と実大免震試験機の実現について」と題して日本学術会議土木工学・建築学委員会からの情報提供をする。

9. 次 第：

○開会式

日時：4月15日（土）15：00 ～ 15：10

場所：東京工業大学大岡山キャンパス西9号館デジタル多目的ホール
（ハイブリッド開催予定）

挨拶：米田 雅子（日本学術会議第三部会員、東京工業大学環境・社会理工学院特任教授）

前川 宏一（日本学術会議第三部会員、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院都市イノベーション部門都市地域社会専攻教授）

司会：中村 聖三（長崎大学大学院工学研究科教授、公益社団法人土木学会構造工学論文集編集小委員会委員長）

○日本学術会議土木工学・建築学委員会の2019年提言と実大免震試験機の実現について

日時：4月15日（土）15：10 ～ 15：25

場所：東京工業大学大岡山キャンパス西9号館デジタル多目的ホール
（ハイブリッド開催予定）

司会：中村 聖三（長崎大学大学院工学研究科教授、公益社団法人土木学会構造工学論文集編集小委員会委員長）

発表者：高橋 良和（京都大学工学研究科教授）

竹内 徹（日本学術会議連携会員、東京工業大学環境・社会理工学院建築学系教授）

○特別講演会

日時：4月15日（土）15：25 ～ 16：25

場所：東京工業大学大岡山キャンパス西9号館デジタル多目的ホール
（ハイブリッド開催予定）

講師：森久保 司（国土交通省大臣官房技術調査課環境安全・地理空間情報技術調整官）

タイトル：「2050年カーボンニュートラルに向けた建設分野の取組」

司会：中村 聖三（長崎大学大学院工学研究科教授、公益社団法人土木学会構造工学論文集編集小委員会委員長）

○パネルディスカッション

日時：4月15日（土）16：30 ～ 18：00

場所：東京工業大学大岡山キャンパス西9号館デジタル多目的ホール
（ハイブリッド開催予定）

タイトル：「カーボンニュートラルと構造工学」

・主旨説明：中村 聖三（長崎大学大学院工学研究科教授、公益社団法人土木学会構造工学論文集編集小委員会委員長）

・パネリスト講演（予定）：

「鋼橋資源の有効活用、カーボンニュートラルに向けて」

春日井 俊博（一般社団法人日本橋梁建設協会）

「鉄鋼部材リユースの可能性」

岡崎 太一郎（北海道大学工学研究院教授）

「洋上風力発電における構造工学の役割」

藤山 知加子（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授）

「木材を用いた建築物の世界的潮流」

五十田 博（京都大学生存圏研究所教授）

司会：長山 智則（東京大学大学院工学系研究科教授、公益社団法人土木学会構造工学
論文集編集小委員会幹事長）

吉敷 祥一（東京工業大学科学技術創成研究院教授、一般社団法人日本建築学
会構造工学論文集編集小委員会幹事）

○一般講演

日時：4月15日（土）～16日（日）

場所：東京工業大学西9号館 W931～W936 教室（予定）

※建築部門、土木部門ごとに投稿論文の発表を行う。

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する
連絡会議

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「カーボンニュートラル時代の熱エネルギー―革新議論と社会実装―」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会エネルギーと科学技術に関する分科会、環境学
委員会環境科学分科会、化学委員会・総合工学委員会・材料工学委員会合
同触媒化学・化学工学分科会
2. 共 催：公益社団法人化学工学会
3. 後 援：公益社団法人日本化学会（予定）、一般社団法人日本機械学会、公益社団法
人石油学会、一般社団法人触媒学会、公益財団法人日本伝熱学会、一般社
団法人日本エネルギー学会（予定）、一般社団法人エネルギー・資源学会
4. 日 時：令和5年（2023年）5月12日（金）13：30～17：40
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室6-A（1）（東京都港区六本木7-22-34）
（ハイブリッド開催）（環境科学分科会開催のため）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：

日本の最終エネルギー消費のうち直接的な電力としての利用は30%以下で、残りの70%以上が化石燃料を用いた熱利用であり、全体として投入された一次エネルギーのうち6割以上が最終的に熱として廃棄されている。また、再生可能エネルギーの大量導入に伴って必要となる蓄エネルギーの手段としても熱の重要性が高まっている。このような状況を考えると、熱エネルギーの有効利用はカーボンニュートラルの実現にとって避けて通れない課題であると言えるだろう。2021年11月に開催した公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた熱エネルギー利用の可能性と課題」では、未利用熱の活用、再生可能エネルギー導入拡大のための蓄熱、生産プロセスにおける熱の脱炭素化、政策的取組についての講演と討論から熱エネルギー利用の現状と課題を検討した。これを発展させるのとして、本シンポジウムでは熱利用の進展の要となる3つの領域で一歩先の熱利用技術に焦点を当て、革新的な技術によって拡大が期待される熱利用の新分野について議論し、カーボ

ンニュートラル実現に向けた熱エネルギー利用の可能性を示し、その重要性への理解を広く共有することを目的としている。

9. 次 第：

開会挨拶と趣旨説明

13：30 開会挨拶

菱田 公一（日本学術会議副会長、第三部会員、明治大学研究・知財戦略機構特任教授）

北川 尚美（日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科教
授）

13：45 趣旨説明

藤岡 恵子（日本学術会議連携会員（特任）、株式会社ファンクショナル・フルイッド代表取締役社長）

講演

14：00 「セラミックス蓄熱材」

講演者未定

14：20 「共有結合性有機骨格への相変化材の導入とその特性 ― 新規な蓄熱材開発を目指して」

村上 陽一（東京工業大学科学技術創成研究院ゼロカーボンエネルギー研究所教授）

休憩（10分）（14：40～14：50）

14：50 「冷熱を利用する大気中 CO₂ 直接回収プロセスの研究開発」

則永 行庸（名古屋大学未来社会創造機構脱炭素社会創造センター教授）

15：10 「産業分野の脱炭素化に資する高温ヒートポンプ」

甲斐田 武延（一般財団法人電力中央研究所グリッドイノベーション研究本部 ENIC 研究部門主任研究員）

15：30 「熱エネルギー高効率利用のための断熱・遮熱・輻射制御」

花村 克悟（日本学術会議連携会員、東京工業大学工学院教授）

16：00 「波長選択ふく射加熱炉」

近藤 良夫（日本ガイシ株式会社 NV 推進本部ビジネスインキュベーションライフサイエンスマネージャー）

休憩（10分）（16：20～16：30）

総合討論

16：30 高瀬 香絵（CDP Worldwide-Japan アソシエイト・ディレクター）、

花村 克悟、甲斐田 武延、則永 行庸、藤岡 恵子

閉会挨拶

17：30 閉会挨拶

阿尻 雅文（日本学術会議連携会員、東北大学材料科学高等研究所教授）

岩城 智香子（日本学術会議連携会員、東芝エネルギーシステムズ株式会社エネルギーシステム技術開発センターシニアフェロー）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「口腔保健から Well-being を再考する」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会、基礎系歯学分科会
2. 共 催：特定非営利活動（NPO）法人日本口腔科学会
3. 後 援：先端歯学国際教育研究ネットワーク、一般社団法人日本歯学系学会協議会、公益財団法人日本生命科学アカデミー
4. 日 時：令和5年（2023年）5月13日（土）15：40 ～ 17：10
5. 場 所：岡山コンベンションセンター（岡山県岡山市北区駅元町14-1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり

8. 開催趣旨：

Well-being の重要性が注目されている中で、多面的かつ持続的な幸福の達成に、口腔保健の維持・向上がどのように貢献できるのかについて整理し、今後なすべき取組等につき議論する機会としたい。

9. 次 第：

挨拶

15:40 市川 哲雄（日本学術会議第二部会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部
教授）

浅海 淳一（岡山大学学術研究院医歯薬学域歯科放射線学分野教授、第
77回特定非営利活動（NPO）法人日本口腔科学会学術集会大
会長）

講演

座長

樋田 京子（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院歯学研究院口腔病態学分野
血管生物分子病理学教室教授）

石丸 直澄（日本学術会議連携会員、徳島大学大学院医歯薬学研究部教授、特定非
営利活動（NPO）法人日本口腔科学会中国・四国理事）

15:43 『国民皆歯科健診が健康に及ぼす効果の検討』

栗田 浩（信州大学医学部医学科歯科口腔外科学講座教授）

16:06 『唾液が反映する口腔と全身の健康』

久保庭 雅恵（大阪大学大学院歯学研究科准教授）

16:29 『口腔の健康が QOL に与える影響』

内藤 真理子（広島大学大学院医系科学研究科教授）

総合討論

16:52 進行：

中村 誠司（日本学術会議連携会員、九州大学大学院歯学研究院教授・
歯学研究院長・歯学府長・歯学部長）

窪木 拓男（日本学術会議連携会員、岡山大学大学院医歯薬学総合研究
科教授、特定非営利活動（NPO）法人日本口腔科学会中国・
四国理事）

討論者：

- ・栗田 浩（信州大学医学部医学科歯科口腔外科学講座教授）
- ・久保庭 雅恵（大阪大学大学院歯学研究科准教授）
- ・内藤 真理子（広島大学大学院医系科学研究科教授）

挨拶

17:07 村上 伸也（日本学術会議第二部会員、大阪大学大学院歯学研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

講演会

「ことば・思考の力をどう育てるかー社会の包摂性を高めるためにー」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会排除・包摂と教育分科会、一般社団法人
日本教育学会近畿地区
2. 共 催：京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター E. FORUM
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）5月26日（金）19：00 ～ 21：00
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

社会において包摂性を高めるためには、学校教育において学力を保障することが一つの鍵となります。しかしながら、学校における学業達成は、子どもたちの社会経済的な背景を反映してしまう現実があることも、これまで明らかにされてきました。すべての子どもたちの学力保障を実現するために、私たちは何にどう取り組めばよいのでしょうか。

この問いについて考えるため、本講演会では、学力不振について認知科学・認知心理学の立場から研究されてきた今井むつみ氏にご講演いただきます。また、松下佳代氏（教育方法学）、志水宏吉氏（教育社会学）の指定討論を得て、議論を深めたいと考えています。

9. 次 第：

司会：

石井 英真（京都大学大学院教育学研究科准教授、一般社団法人日本教育学会近
畿地区理事）

西岡 加名恵（日本学術会議連携会員、京都大学大学院教育学研究科教授、一般
社団法人日本教育学会近畿地区理事）

挨拶

19：00 開会挨拶

岡部 美香（日本学術会議第一部会員、大阪大学大学院人間科学研究科教授）

講演

19：05 「算数学力不振の理由—認知科学の観点から」
今井 むつみ（慶應義塾大学環境情報学部教授）
休憩（5分）（20：05 ～ 20：10）

指定討論

20：10 松下 佳代（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院教育学研究科教授）
20：20 志水 宏吉（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院人間科学研究科教授）

総合討論

20：30 登壇者間、及び登壇者と参加者との間の質疑応答・討論

挨拶

20：55 西岡 加名恵（日本学術会議連携会員、京都大学大学院教育学研究科教授、一般社団法人日本教育学会近畿地区理事）

21：00 閉会

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「基礎科学が導く SDGs 達成への道～結晶&生命&技術革新～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会、化学委員会
IUCr 分科会
2. 共 催：一般社団法人日本結晶学会、日本結晶成長学会（予定）
3. 後 援：情報計算化学生物学会（CBI 学会）
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）5 月 27 日（土）13：00 ～ 16：40（予定）
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費：無
7. 分科会等の開催：未定

8. 開催趣旨：

「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）」は、貧困、飢餓、感染症、エネルギー、技術革新、気候変動、海の資源の保全など世界を取り巻く問題を整理し、2030 年までに達成すべき具体的な課題として 17 の目標を立てたものです。これらの解決には、政治的、経済的な取組が不可欠な側面と、これまでに人類が基礎科学分野で蓄積してきた知見や技術を基に問題解決・改善に向けて取り組んでいく側面があります。

本シンポジウムでは、SDGs 達成に向けたこれまでの取組から得た教訓をもとに 2030 年とその先に向けて科学技術に求められていることを考える俯瞰的な講演に続き、生命科学分野と物理・化学分野の基礎科学の知見と技術のコラボレーションがもたらす最新の研究成果を紹介します。様々な物質の「結晶」を基に物質科学の基礎研究が生まれ、材料化学や生命科学へと発展しました。今回紹介する研究の多くは、この発展の過程で蓄積した知見や、開拓された技術の成果であり、SDGs 達成へ向けた推進力となっています。

次の世代の方に、基礎科学という土台の広がりとこれをベースとした取組を知り、今後さらに必要とされる新たな視点について考えていただく機会にすることを趣旨とします。

9. 次 第：(予定)

13：00-13：05 開会の辞

中川 敦史（一般社団法人日本結晶学会会長、大阪大学蛋白質研究所教授）

13：05-13：10 趣旨説明

菅原 洋子（日本学術会議連携会員、北里大学名誉教授）

13：10-13：40 講演「SDGs が科学技術に求めること」

中村 道治（国連「10人委員会」メンバー（2018-2020）、中性子産業利用推進協議会副会長、国立研究開発法人科学技術振興機構名誉理事長）

13：40-14：10 講演「（仮題）エボラウイルスの細胞内増殖機構の解明」

野田 岳志（日本学術会議連携会員、京都大学ウイルス・再生医科学研究所教授）

14：10-14：40 講演「クライオ電子顕微鏡による CO2 資源化酵素の構造解析と電子移動メカニズムの解明」

宮田 知子（大阪大学大学院生命機能研究科特任准教授）

14：40-14：50 休憩

14：50-15：20 講演「バイオ高分子素材が切り拓く SDGs」

沼田 圭司（京都大学大学院工学研究科材料化学専攻教授）

15：20-15：50 講演「化合物半導体結晶はいかに紡ぎ出されるのかー超高真空中と細菌からとーそしてその応用展開」

富永 依里子（日本学術会議若手アカデミー会員、広島大学大学院先進理工系科学研究科准教授）

15：50-16：35 パネルディスカッション

進行：黒田 玲子（日本学術会議連携会員、中部大学先端研究センター特任教授）

コメント：高田 昌樹（日本学術会議連携会員、東北大学多元物質科学研究所国際放射光イノベーション・スマート研究センター教授）

16：35-16：40 閉会の辞

佐々木 園（日本学術会議第三部会員、京都工芸繊維大学繊維学系教授）

10. 関係部の承認の有無： 第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）
連絡会議

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「世界哲学と世界の危機」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議哲学委員会世界哲学構築のための分科会、日本哲学会、哲学系諸学会国際連合（FISP）
2. 共 催：東アジア藝文書院（EAA）、哲学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和5年（2023年）5月28日（日）9：30 ～ 19：00
5. 場 所：東京大学本郷キャンパス文学部一番大教室（文京区本郷7-3-1）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費：無
7. 分科会等の開催：なし

8. 開催趣旨：

哲学系諸学会国際連合（FISP）は哲学分野最大の国際学会組織であり、ISCの人文学領域の対応組織であるCIPSH（国際哲学人文学会議）に1949年以来加盟している。日本のFISP加盟学会は日本哲学会を含む日本哲学系諸学会連合である。この度、FISPの運営委員会が2023年5月29～30日に東京大学本郷キャンパスにて開催されることになり、出席するために来日する約25名のFISP運営委員を招聘して公開シンポジウムを開催する。

シンポジウムのテーマ「世界哲学と世界の危機」は、これまで暗黙裡に西洋のものとされてきた哲学を世界に開き、「世界哲学」として鍛え直すこと、それによってロシア・ウクライナ戦争、気候温暖化、パンデミックなどのグローバルな課題、さらに人種問題・ジェンダー・経済格差などの社会的課題にいかに対処するかを議論することを意味する。

日本哲学会・日本哲学系諸学会連合は、5年ごとに開催されるFISPの世界大会である世界哲学会大会（WCP）を2028年に誘致する予定である。学術会議の本分科会は、その大会の理念として日本から打ち出す「世界哲学」を哲学系諸領域の委員がともに構想するために設けている。本シンポジウムはWCPに先立ち、各国から集まるFISP運営委員とこの構想を共有し、対話により練り上げることを意図している。

9. 次 第：

司会：納富 信留（日本学術会議連携会員、東京大学大学院人文社会系研究科教授、哲学系諸学会国際連合（FISP）運営委員）

挨拶及び基調講演

9:30 『（タイトル未定）』

一ノ瀬 正樹（日本学術会議連携会員、武蔵野大学人間科学部教授、
東京大学名誉教授、日本哲学会会長）

『（タイトル未定）』

Luca Maria Scarantino（FISP 会長）

発表セッション

10:45 発表セッション（1）『Co-constructing World Philosophy』

Dermot Moran（FISP 前会長）

橋本 典子（青山学院女子短期大学名誉教授、哲学系諸学会国際連
合（FISP）副会長）

中島 隆博（日本学術会議連携会員、東京大学東洋文化研究所教授）

13:15 発表セッション（2）『World Philosophy and Environment』

河野 哲也（日本学術会議連携会員、立教大学文学部教育学科教授）

Pham Van Duc（哲学系諸学会国際連合（FISP）運営委員）

長坂 真澄（早稲田大学国際教養学部准教授）

15:00 発表セッション（3）『World Philosophy and Diversity』

Sigridur Thorgeirsdottir（哲学系諸学会国際連合（FISP）運営委
員）

上原 麻有子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院文学研究科
教授）

Gerhard Seel（哲学系諸学会国際連合（FISP）会計）

16:45 発表セッション（4）『World Philosophy, Peace and War』

Suwanna Satha-Anand（哲学系諸学会国際連合（FISP）事務局長）

Maria Baghramian（哲学系諸学会国際連合（FISP）運営委員）

加藤 泰史（日本学術会議連携会員、相山女学園大学国際コミュニ
ケーション学部教授）

18:15 まとめ

Would World Philosophy Save the World?

閉会挨拶

橋本 典子（青山学院女子短期大学名誉教授、哲学系諸学会国際連
合（FISP）副会長）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

公開シンポジウム
「第 35 回環境工学連合講演会」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会
2. 共 催：公益社団法人化学工学会、公益社団法人環境科学会、一般社団法人環境資源工学会、公益社団法人空気調和・衛生工学会、一般社団法人資源・素材学会、公益社団法人地盤工学会、一般社団法人静電気学会、公益社団法人大気環境学会、公益社団法人土木学会、日本 LCA 学会、公益社団法人日本化学会、一般社団法人日本機械学会、○一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本水道協会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人日本鉄鋼協会、一般社団法人日本土壌肥料学会、公益社団法人日本分析化学会、公益社団法人日本水環境学会、一般社団法人廃棄物資源循環学会（○印は幹事学会）
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）5 月 30 日（火）10：00 ～ 17：30
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室 5－C（1）（2）（東京都港区六本木 7-22-34）
（ハイブリッド開催）（企画分科会環境工学連合小委員会開催のため）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費：無
7. 分科会等の開催：開催予定あり
8. 開催趣旨：
前回の第 34 回講演会では、総合テーマ「環境工学の 22 世紀」のもと、各学協会における環境工学関連の研究・技術開発の具体的な取組を紹介いただき、22 世紀に向けた環境工学の在り方や、22 世紀の社会を変え得る環境工学の最先端について活発な議論を行った。近年、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るってきており、今後、コロナ禍からの復興に当たって、発展する未来の実現のために環境工学が果たす役割について議論をする場を提供したいとの考えに至った。第 35 回講演会では、「グリーンリカバリーと環境工学」を総合テーマとして、官・学・民の研究者及び技術者による学術成果、技術成果の発表、討議を通じ、バランスのとれた環境工学の発展を意図して行う。

9. 次 第：

○開会挨拶：田辺 新一（日本学術会議第三部会員、早稲田大学創造理工学部建築学科教授）

浅見 真理（日本学術会議第三部会員、日本学術会議環境学委員会委員長、国立保健医療科学院生活環境研究部上席主任研究官）
（調整中）

○特別講演：林 基哉（一般社団法人日本建築学会、北海道大学工学研究院建築都市部門教授）

「COVID-19 からの復興と環境工学の役割－建築物における感染症対策と温暖化対策の両立－」

○招待講演 15 件（参加学協会から推薦された講演者）

開会（10：00～10：15）

◎開会挨拶：

田辺 新一（日本学術会議第三部会員、早稲田大学創造理工学部建築学科教授）

浅見 真理（日本学術会議第三部会員、日本学術会議環境学委員会委員長、国立保健医療科学院生活環境研究部上席主任研究官）

【グリーンリカバリーの取組 1（10：15～11：15）】

01 招待講演：カーボンキャプチャー社会システムの構築～土木インフラ分野からの脱炭素社会の実現～

斉藤 泰久（公益社団法人地盤工学会、パシフィックコンサルタンツ株式会社品質技術開発部長）

02 招待講演：持続的な食料生産システム構築に向けた土壌肥料分野の取り組み（仮題）

草 佳那子（一般社団法人日本土壌肥料学会、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農研機構中日本農業研究センター転換畑研究領域上級研究員）

03 招待講演：ゼロエネルギー・カーボンニュートラルを実現する資源回収型下水処理システム

李 玉友（公益社団法人日本水環境学会、東北大学大学院工学研究科教授）

【グリーンリカバリーの取組 2（11：25～12：25）】

04 招待講演：非持続的窒素循環を革新する新規窒素変換技術の創出

岡部 聡（公益社団法人土木学会、北海道大学大学院工学研究院教授）

05 招待講演：大気汚染物質による植物の環境ストレス応答の分子機構

青野 光子（公益社団法人大気環境学会、国立研究開発法人国立環境研究所生物多様性領域／副領域長）

06 招待講演：微生物機能を活用した新たな環境産業創出を目指して～環境把握のためのバイオ分析化学～

青木 寛（公益社団法人日本分析化学会、国立研究開発法人産業技術
総合研究所環境創生研究部門環境機能活用研究グループ研
究グループ長）

【基調講演（13：30～14：00）】

座長：秋元 孝之（一般社団法人日本建築学会、芝浦工業大学建築学部教授）

S-01 基調講演：COVID-19 からの復興と環境工学の役割ー建築物における感染症対策
と温暖化対策の両立ー

【グリーンリカバリーの取組3（14：10～15：50）】

P-01 招待講演：マテリアルズ・インフォマティクスが加速する機能性材料開発

畑中 美穂（公益社団法人日本化学会、慶應義塾大学理工学部准教授）

P-02 招待講演：持続可能な社会実現に向けた食品ロスおよび消費者の行動に関する研究

野々村 真希（一般社団法人廃棄物資源循環学会、東京農業大学国
際食糧情報学部助教）

P-03 招待講演：グリーンリカバリー実現のための冷凍空調分野の貢献

飛原 英治（一般社団法人日本機械学会、独立行政法人大学改革支
援・学位授与機構特任教授）

P-04 招待講演：ウィズコロナにおける静電気技術の役割

大嶋 孝之（一般社団法人静電気学会、群馬大学大学院理工学府教授）

P-05 招待講演：ユビキタス CO2 回収に向けた大気からの直接的 CO2 回収技術の開
発とその展望

藤川 茂紀（公益社団法人化学工学会、九州大学カーボンニュート
ラル・エネルギー国際研究所教授）

【グリーンリカバリーの取組4（16：00～17：20）】

P-06 招待講演：シチズンサイエンスと熟議による気候変動分野における研究 DX の
具現化

馬場 健司（公益社団法人環境科学会、東京都市大学環境学部教授）

P-07 招待講演：グリーンイノベーションのパラドックス

山末 英嗣（一般社団法人日本鉄鋼協会、立命館大学理工学部教授）

P-08 招待講演：Towards amine-based CO2 capture in concrete

エラクネス ヨガラジャ（一般社団法人環境資源工学会、一般社団法
人資源・素材学会、北海道大学大学院工学
研究院准教授）

P-09 招待講演：空気調和・衛生工学分野におけるカーボンニュートラルの取り組み

中野 淳太（公益社団法人空気調和・衛生工学会、東海大学工学部准
教授）

○閉会挨拶：前川 宏一（日本学術会議第三部会員、横浜国立大学大学院都市イノベ
ーション研究院都市地域社会専攻教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：カーボンニュートラル（ネットゼロ）に関する
連絡会議

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム

「安全安心な未来の食料生産を考える－昆虫がつなぐ 2050 年の食生活－（案）」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会
2. 共 催：日本昆虫科学連合
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 5 年（2023 年）6 月 10 日（土） 13:00 ～ 16:45
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

世界的な人口増加により、2050 年には人口が現状の 1.3 倍、穀物需要量は 1.7 倍にも達すると予想され、食料需給のひっ迫が必至の状況にあると言われている。21 世紀を人類が全うできるかは、今を生きる私たちの判断や行動に委ねられていると言っても過言ではない。22 世紀へ人類のバトンプスを考えた際に、経済社会における食料確保と環境保全はエッセンシャル・ミニマムと言える。そして、生物資源としての昆虫の科学がその双方に深く関わっていることが、近年の研究動向の中で鮮明になってきた。全人類が未来に向けて共通にもつ最重要課題である食料の確保とその持続可能な生産体系の構築に挑む昆虫学関連の最新の研究にフォーカスし、特に注目されているユニークで革新的な 2 つの挑戦について紹介したい。1 つ目は、食料の生産性を損ねる主要な要因の一つである農業害虫を先端的な技術を駆使して制御し、被害をゼロベースにすることで安全安心な未来型食料生産を目指す研究、2 つ目は、有用昆虫を選抜して食料化を図り、また魚類や家禽の飼料とすることで循環型食料生産システムを開発する試みである。従来技術の延長にない大胆な発想に基づく異分野融合型の研究・開発に取り組む日本のリーダー格の研究者を中心に、日々課題解決に向けて研究に勤しむ研究者の貴重な生の声を皆様にお届けしたい。

本公開シンポジウムが、地球上で私たちの子孫が平和で安心して暮らしていくために何を考えなければいけないのかを一般市民の方々と共有し、ともに考える機会となることを期待している。

9. 次 第：

挨 拶

- 13:00 「日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会活動報告」
小野 正人（日本学術会議連携会員、玉川大学学術研究所所長）
- 13:10 「日本昆虫科学連合活動報告」
阿部 芳久（日本学術会議連携会員、日本昆虫科学連合副代表、九州大学大学院比較社会文化研究院教授）
休憩（10 分）（13：20～13：30）

◇総合司会

- 池田 素子（日本学術会議第二部会員、名古屋大学大学院生命農学研究科教授）
- 13:30 「食の未来を社会に広げる科学者の役割」
千葉 一裕（日本学術会議連携会員、東京農工大学学長）
- 14:00 「地域の生物多様性を活かす持続的農業害虫管理（仮）」
日本 典秀（京都大学大学院農学研究科教授）
- 14:30 「光、レーザーを利用した害虫防除技術と今後の展望（仮）」
村田 未果（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構植物防疫研究部門上級研究員）
休憩（20 分）（15：00～15：20）
- 15:20 「昆虫の家畜化による新しいタンパク質源の導入（仮）」
由良 敬（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学科教授）
- 15:50 「養鶏におけるシロアリ粉末の飼料化の可能性（仮）」
塚原 洋子（京都大学大学院農学研究科特定講師）
- 16:20 総合討論
- 16:45 閉会

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国際会議の後援（2件）

以下の国際会議について、後援の申請があり、国際委員会において審議を行ったところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第34回国際生物科学連合総会

主催：国際生物科学連合

期間：令和5年3月9日（木）～3月12日（日）

場所：中央大学理工学部後楽園キャンパス

参加予定国数：22 か国・地域

申請者：第34回国際生物科学連合総会国内実行委員会大会実行委員長 西田 治文

※国際委員会2月9日承認、同国際会議主催等検討分科会1月25日承認

2. 第5回アジア太平洋研究公正ネットワークミーティング2023

主催：一般財団法人公正研究推進協会

期間：令和5年3月20日（月）～3月22日（水）

場所：早稲田大学早稲田キャンパス

参加予定国数：15 か国・地域

申請者：一般財団法人公正研究推進協会 浅島 誠

※国際委員会2月9日承認、同国際会議主催等検討分科会1月25日承認

○国内会議の後援（1件）

以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 日本物理学会シンポジウム「日本の研究力と研究の多様性～現状分析から研究力強化を考える～」

主催：一般社団法人日本物理学会

期間：令和5年3月25日（土）13:00 ～ 15:35

場所：オンライン開催

参加予定者数：約200名

申請者：一般社団法人日本物理学会 理事 肥山 詠美子

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部 承認

○今後の予定

●幹事会

第 3 4 0 回幹事会	令和 5 年 3 月 2 3 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 4 1 回幹事会	令和 5 年 4 月 1 3 日（木）（※）	1 6：3 0 から
第 3 4 2 回幹事会	令和 5 年 4 月 1 7 日（月）～1 9 日（水） ※第 1 8 7 回総会期間中に開催予定	
第 3 4 3 回幹事会	令和 5 年 5 月 1 1 日（木）（※）	1 4：3 0 から
第 3 4 4 回幹事会	令和 5 年 5 月 2 5 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 4 5 回幹事会	令和 5 年 6 月 1 5 日（木）（※）	1 4：3 0 から
第 3 4 6 回幹事会	令和 5 年 6 月 2 9 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 4 7 回幹事会	令和 5 年 7 月 1 3 日（木）（※）	1 4：3 0 から
第 3 4 8 回幹事会	令和 5 年 7 月 2 4 日（月）	1 4：3 0 から
第 3 4 9 回幹事会	令和 5 年 8 月 1 0 日（木）（※）	1 4：3 0 から
第 3 5 0 回幹事会	令和 5 年 8 月 2 9 日（火）	1 3：3 0 から
第 3 5 1 回幹事会	令和 5 年 9 月 1 5 日（金）（※）	1 3：3 0 から
第 3 5 2 回幹事会	令和 5 年 9 月 2 5 日（月）	1 3：3 0 から

※印の幹事会は、取りやめの可能性あり

●総会

第 1 8 7 回総会	令和 5 年 4 月 1 7 日（月）～1 9 日（水） ※なお、日本学術会議法の改正など「政府方針」をめぐる動向によっ ては、臨時総会の開催の可能性を含め、ここに記載の総会の日程は変 更の可能性がります。
-------------	--